

平成19年度(第51回)  
岩手県教育研究発表会発表資料

社会 / 地歴・公民

**小学校歴史学習における人物の働きについて  
理解する力を育成する指導に関する研究**  
- 人物を身近に感じることのできる場面の工夫をとおして -

平成20年1月9日  
長期研修生  
所属校 陸前高田市立高田小学校  
氏名 関 戸 文 則

## 目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	1
1 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本構想	1
(1) 人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本的な考え方	1
(2) 人物を身近に感じることのできる場面について	3
(3) 人物を身近に感じることのできる場面を組み入れた学習指導の展開	5
(4) 小学校歴史学習における人物の働きを理解する力を育成する指導に関する基本構想図	5
2 手だてに関わる実態調査及び調査結果の分析と考察	7
(1) 実態調査の目的と内容	7
(2) 実態調査の分析と考察	7
(3) 実態調査の結果から明らかになったことと手だての試案作成上の配慮事項	10
3 基本構想に基づく手だての試案の作成	10
(1) 手だての試案	10
(2) 検証計画	11
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	12
(1) 人物を身近に感じることのできる場면을工夫した手だての試案に基づく授業実践の概要	12
(2) 実践結果の分析と考察	20
5 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する研究のまとめ	28
(1) 成果	28
(2) 課題	29
研究のまとめ	
1 研究のまとめ	29
2 今後の課題	30
<おわりに>	
【引用文献】	
【参考文献】	

## 研究目的

小学校の歴史学習においては、先人の業績や代表的な文化遺産を中心に学習することをとおして、児童が、我が国の歴史に対する理解と愛情を一層深めることが求められている。そのためには、各時代の人物がどのような知恵を出し合い、どのような工夫や努力を重ねて国家・社会の発展に貢献してきたかという、人物の働きについて理解する力を育成する必要がある。

しかし、児童の実態を見ると、意欲的に歴史の授業に取り組むものの、歴史的事象の知識獲得に意識が先行し、国家・社会の発展に貢献した人物の働きについて、理解が浅く表面的なものにとどまっている傾向が見られる。これは、小学校における歴史の授業が教師主導の通史的なものとなりがちで、その当時の歴史的背景や人物の立場を実感させる手だてが十分でなかったことが要因と考えられる。

このような状況を改善するためには、児童が人物の働きについて理解する力を付けることができるように、人物を身近に感じることでできる場면을指導過程に位置付ける必要がある。そのためには、人物の活動の一部を体験する追体験的な活動場면을設定し、児童一人一人が、人物の思いや願い、苦勞、努力、当時の状況などにふれることができるように工夫することが大切である。

そこで、この研究は、小学校の歴史学習において、人物を身近に感じることでできる場면을工夫することによって、人物の働きについて理解する力を育成する指導について明らかにし、小学校社会科の指導の充実と向上に役立てようとするものである。

## 研究仮説

小学校の歴史学習において、人物を身近に感じることでできる、次のような場면을指導過程に位置付ければ、自分とのかかわりについて考えたり人物の状況を想像したりして、人物の働きを理解する力を育成することができるであろう。

- 1 人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する場面
- 2 人物と自分の生活や地域とのかかわりに気付く場面

## 研究の内容と方法

### 1 研究の内容と方法

- (1) 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本構想の立案（文献法）
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（質問紙法）
- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成（文献法）
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践，テスト法）
- (5) 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する研究のまとめ

### 2 授業実践の対象

陸前高田市立高田小学校 第6学年 1学級（男子14名 女子13名 計27名）

## 研究結果の分析と考察

### 1 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本構想

- (1) 人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本的な考え方

## ア 人物の働きについて理解する力とは

小学校学習指導要領には、「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」と示されており、人物の働きを中心にした歴史学習が求められている。また、人物の働きの理解については、「歴史上の人物が生きた当時の世の中の課題を解決し人々の願いを実現していったことを調べたりまとめたりしながら、人物の働きを共感的に理解できるようにすること。」と示されている。「人物の働き」とは、国家・社会の発展に貢献した先人の思考・行為や、それに伴う結果・価値のことである。その働きの過程には、目には見えない多くの苦労や努力、悩みや葛藤、工夫や喜びなどが存在したはずである。

したがって、「人物の働きについて理解する力」とは、「人物の働きについて、その願いや努力や苦心、社会のために果たした役割や業績などを、その歴史的背景と関連付けて理解する力」ととらえた。

以上のことから本研究では、人物の働きについて理解する力が育成された児童の姿を、「人物が果たした業績や役割について人物の立場をふまえて理解し、よりよく生活していくために大切な考えを意識できる児童」ととらえ、人物の働きを理解する力を、【表1】のように、「事実をとらえる力」、「関連を考える力」、「価値を見つける力」の三つの要素から構成されるものとする。

【表1】人物の働きを理解する力の構成要素とその意味

構成要素	構成要素の意味
事実をとらえる力	当時の歴史的背景や、「いつ」、「だれが」、「なにを」、「どうした」など、人物の働きについての基本的な事実をとらえる力
関連を考える力	歴史的背景など人物の立場をふまえ、人物の行為の理由や目的が実現された理由について、関連付けて考える力
価値を見つける力	当時の社会への影響や現在とのつながりから人物の働きの価値を見つけ、よりよく生活していくために大切な考え方を意識する力

これらの構成要素は、小学校の歴史学習の中でそれぞれ段階的に養われていくものであり、学習活動を繰り返し重ねていく中で、相互に作用しあいながら、人物の働きを理解する力が育成されていくものとする。

## イ 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成することの意義

小学校社会科の目標の一つは、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てること」である。社会生活についての理解を図るには、現在の社会生活だけではなく、我が国や国民生活を支え、発展させてきた先人の働きの理解が必要である。そして、先人の働きの上に今日の国民生活があるということは、今日の人々の働きが、やがてこれからの我が国の発展と人々の幸福につながる可能性があると感じることが大切である。人物の働きを理解する力を育成することは、今日の社会生活の成り立ちを正しく理解し、国民の一人として我が国の発展や国民生活の充実のために尽くそうとする態度の育成へとつながるものである。

児童たちは、人物の働きについて学習する中でその人物の願いや思いにふれ、よりよく生きたいと願ったことに気付き、生き方や業績に共感的な思いを持つことができるようになる。

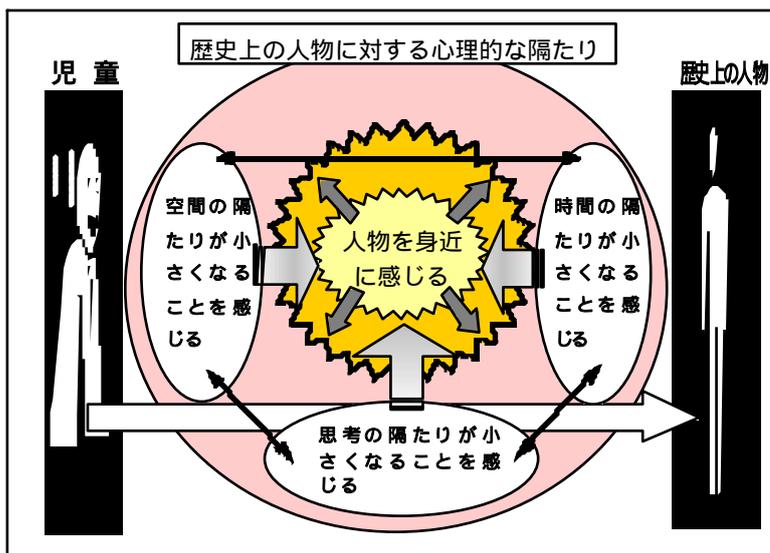
それはまた、人物の生き方に学び、未来に向けて自分の生き方を考える力、つまり社会的な見方や考え方を身に付け、主体的・創造的に生きていくために必要な資質や能力の育成へとつながるものである。

以上のことから、小学校の歴史学習において、人物の働きを理解する力を育成することに意義があると考えられる。

(2) 人物を身近に感じることをできる場面について

ア 「人物を身近に感じる」とは

小学校の歴史学習において、「人物を身近に感じる」とは、児童が、「歴史上の人物に対して持っていた心理的な隔たりが前より小さくなったと感じること」ととらえる。児童が持っている、歴史上の人物に対する心理的な隔たりとは、人物との「思考の隔たり」、「時間の隔たり」、「空間の隔たり」の三つから構成されるものと考えられる。「思考の隔たり」がある状態とは、社会の発展に貢献した人物が持っていた悩みや苦勞と、児童自身の持つ、偉大な人物像との間にある「ずれ」のことである。「時間の隔たり」がある状態とは、現在とその人物が生きた時代とのつながりを具体的にとらえていない状態のことである。「空間の隔たり」がある状態とは、自分が生活する地域とその人物の働きとのつながりを具体的にとらえていない状態のことである。



【 図 1 】 歴史上の人物を身近に感じるとは

思考、時間、空間の三つの隔たりから構成される歴史上の人物に対する心理的な隔たりは、「人物を身近に感じることをできる場面」を通して、互いにかかわり合いながら、段階的に小さくなっていくものである。そして、これらの隔たりが小さくなるにつれて、児童は人物をより身近に感じ、人物の働きを理解する力が育成されていくものととらえる。【図1】は、児童の感じている心理的な隔たりが小さくなることによって、歴史上の人物を身近に感じる度合いが大きくなっていくことを図に表したものである。

イ 「人物を身近に感じることをできる場面」とは

人物を身近に感じることをできる場面」とは、歴史上の人物に対する心理的な隔たり、つまり人物の間にある思考の隔たり、時間の隔たり、空間の隔たりが前より小さくなったと児童が感じることをできる場面である。本研究では、「人物を身近に感じることをできる場面」として、以下の二場面を設定し、指導の工夫を図っていく。

(ア) 人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する場面

人物の苦勞や葛藤を追体験することで、それまで持っていた人物像が揺さぶられる場面である。また、人物の工夫や努力を追体験することで、困難を克服し社会の発展に貢献した前向きで強い意志や行動力にふれる場面である。人物の働きの事実だけでなく、その過程に存在した不安や迷い、粘り強い努力や豊富なアイディアなどに迫りながら、人物との思考の隔

たりを小さくし、人物をより身近に感じることができるようになると考える。

(1) 人物と自分の生活や地域とのかかわりに気付く場面

人物の働きは、政治や教育、医療や文化など様々な分野で現在の社会に大きな影響を与えている。現在は常識となっているものが、学習している人物と深くかかわっていることに気付き、人物との時間の隔たりを小さくする場面である。また、学習している人物にかかわる地域の資料や地域の先人にふれることで、その人物と自分の地域との具体的なかかわりに気付き、人物との空間の隔たりを小さくする場面である。

【表2】は、人物との三つの隔たりを解消するためのアプローチと、それにかかわる「人物を身近に感じることのできる場面」についてまとめたものである。

【表2】「人物を身近に感じる」ためのアプローチと場面

アプローチの種類	思考の隔たりの解消へのアプローチ	時間の隔たりの解消へのアプローチ	空間の隔たりの解消へのアプローチ
場面	人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する場面（仮説1）	人物の働きと自分の生活とのかかわりに気付く場面（仮説2）	人物の働きと自分の住む地域とのかかわりに気付く場面（仮説2）

ウ 人物を身近に感じることのできる場面を工夫することの意義

木村(1995)は、人物の働きを指導するポイントとして、「人物が、当時の歴史の流れの中で、どのような願いを持って行動し、どのような影響を世の中に与えたのかを、できるだけ具体的に、イメージ豊かに理解させること。」と述べている。人物の働きは容易に達成されたものではなく、困難を解決するための多くの苦労や判断、工夫や努力、多数の人々の協力の上に達成されたものである。このことを具体的に、イメージ豊かに理解することは、歴史上の人物を自分と同じ一人の人間として生き生きととらえ、その働きや生き方に共感的な思いを持つことにつながる。そのことはさらに、自分もこれからの生活の中で積極的に問題に取り組んでいこうとする態度の育成へとつながるものである。

しかし、歴史学習では、対象となる人物に直接出会う話を聞いたり、人物の行為を直接見たり体験したりすることが難しい。そのため児童たちは、人物が容易に課題の解決や願いの実現を思ったととらえがちで、人物が置かれた当時の状況からその働きについて理解することが難しい面がある。

そこで、人物を身近に感じることのできる場面を組み込み、当時の歴史的背景や人物の置かれた状況を意識させることが、人物の働きを理解する力の育成につながると考える。本研究では、人物の働きを理解する力を育成するために、人物を身近に感じることのできる場面を工夫する意義を以下の四点ととらえ、5頁【図2】のようにまとめた。

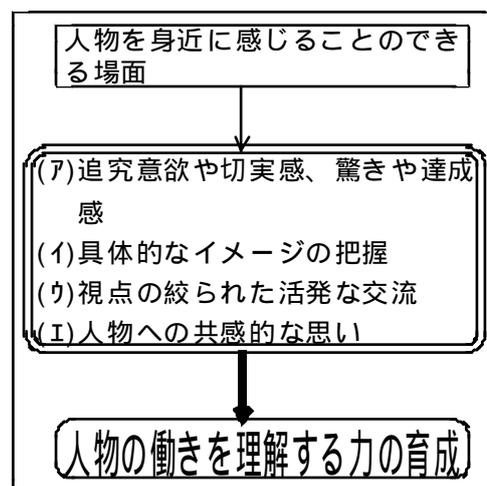
(ア) 人物を取り巻く状況や人物の働きに対して、「なぜだろう」、「どうなったのだろう」という追究意欲や「なんとかしたい」という切実感を持たせたり、「こんなことがあったのか」という驚き、工夫や努力が実を結んだ時の達成感などを感じさせたりすることができる。

(イ) 人物や時代の具体的なイメージを児童にとらえさせやすく、事象の関連を理解させることが容易になる。

(ウ) 学習活動に臨場感を与えることができる。また、児童個々の多様な疑問や予想、見方や考え方

をもとに共通の体験をさせることができる。そのため、話し合いの視点が絞られ、活発な交流の展開が可能となる。

- (I) 人物の働きに対して、共感的な思いを持たせることができる。「共感的に理解する」ということについて末政(1996)は、「理解は、言語により論理的に説明できる言語理解と、人間の内面を情意的に理解する非言語理解とに分類され、この二つを連動させることで、共感的に理解する力が育成される。」と述べている。人物を身近に感じることで、苦労や努力、工夫や喜びなど、人間の内面を情意的にとらえ、事実などの客観的な理解とあわせて、共感的な思いを持った理解へつながっていくものと考える。



【図2】人物を身近に感じることでできる場面を工夫する意義

- (3) 人物を身近に感じることでできる場面を組み入れた学習指導の展開

本研究では、単元全体をとおして、人物を身近に感じることでできる場面の工夫を行い、人物の働きを理解する力を育成する学習指導を進めていく。

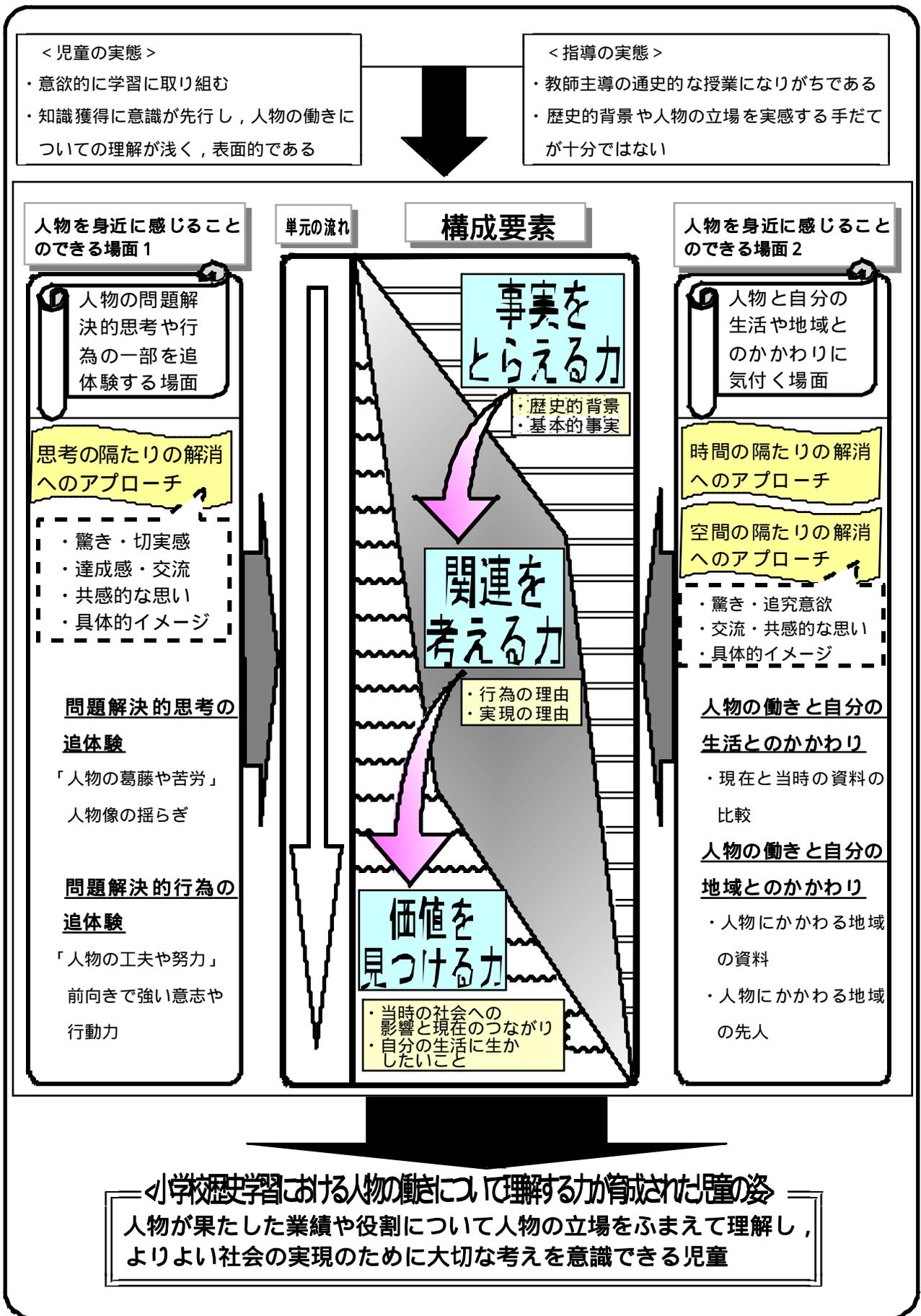
【表3】は、人物を身近に感じることでできる場面の役割と、各場面にかかわる工夫についてまとめたものである。

【表3】「人物を身近に感じることでできる場面」の役割と工夫

場面の役割	場面にかかわる工夫
人物の働きと自分の生活のかかわりに気付く (ア) 追究意欲、驚き (イ) 具体的イメージの把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在 人物の登場以前 人物の登場以後の順序で資料を提示する。児童にとって常識となっているものが、これから学習する人物の働きとかかわりがあることに気付かせる</li> <li>年表を活用し、人物の活躍した時代と現在との時間的な位置関係を明確にする</li> </ul>
人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する (ア) 切実感、驚き、達成感 (イ) 具体的イメージの把握 (ウ) 視点の絞られた交流 (エ) 人物への共感的な思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の苦労や葛藤場面にふれさせ、「なんとかしたい」という切実感を持たせる</li> <li>人物の工夫や努力の場面から、前向きな意志や行動力に気付かせる。「こんなことがあったのか」という驚きや事業を成し遂げる達成感を感じさせる</li> <li>人物の登場前後の社会の様子を比較させ、人物の働きの価値を考えさせる</li> </ul>
人物の働きと自分の地域のかかわりに気付く (ア) 驚き、共感的な思い (イ) 具体的イメージの把握 (ウ) 視点の絞られた交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物とゆかりのある身近な資料にふれさせる</li> <li>人物とゆかりのある郷土の先人の存在にふれさせる</li> <li>地図を活用し、人物と、人物にかかわりのある身近な地域との空間的な位置関係を明確にする</li> </ul>

- (4) 小学校歴史学習における人物の働きを理解する力を育成する指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、小学校歴史学習における人物の働きを理解する力を育成する指導に関する基本構想図を【図3】に示す。



【図3】小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する基本構想図

## 2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

### (1) 実態調査の目的と内容

#### ア 調査の目的

この調査の目的は、社会科における歴史の学習活動での児童の実態調査を行い、人物を身近に感じることでできる場面の工夫を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

#### イ 調査の対象

陸前高田市立高田小学校 第6学年 1学級（男子14名 女子13名 計27名）

#### ウ 調査日時

平成19年7月23日（月）1校時

#### エ 調査と処理の方法

(ア) 研究者が先行研究や参考文献を基に作成した質問紙による調査を行う。

(イ) 評定尺度を設けた設問は、回答の傾向を分析・考察する。

(ウ) 自由記述による設問は、回答内容を分類し、分析・考察する。

#### オ 調査の内容

実態調査の観点及び設問の内容は、【表4】のとおりである。

【表4】実態調査の観点及び設問内容

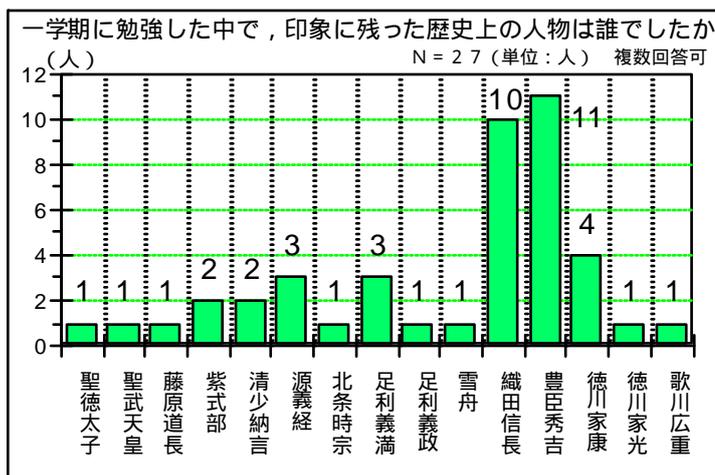
観 点	設 問	設 問 内 容	手だてへの生かし方
人物や時代の印象についての実態	1	・歴史上の人物で、印象に残った人物は誰か	・一学期の学習で印象に残った人物及び時代と、その理由並びに関連を把握し、心理的な隔たりを小さくさせるための資料準備や場の工夫に生かす
	2	・どのようなところが印象に残ったか	
	3	・印象に残った時代は何時代か	
	4	・どのようなところが印象に残ったか	
歴史と自分の生活とのかかわりについて の児童の意識	5	・歴史を学習していて、自分の生活とのかかわりがあると感じたことがあるか	・歴史と自分の生活とのかかわりの意識を把握し、時間や空間の隔たりを小さくする場面での手だての工夫に生かす
	6	・どのような時に、自分の生活とのかかわりがあると感じたか	

### (2) 実態調査の分析と考察

#### ア 人物や時代の印象について

(ア) 一学期の学習で印象に残った歴史上の人物についての実態

【図4】は、一学期に学習した中で、印象に残った歴史上の人物についての調査結果である。一学期に取り上げられた人物は為政者が多いため、政治にかかわった人物が印象に残りやすいのではないかと予想した。しかし、結果を見ると、戦いで活躍した人物が印象に残っている児童が圧倒的に多い。



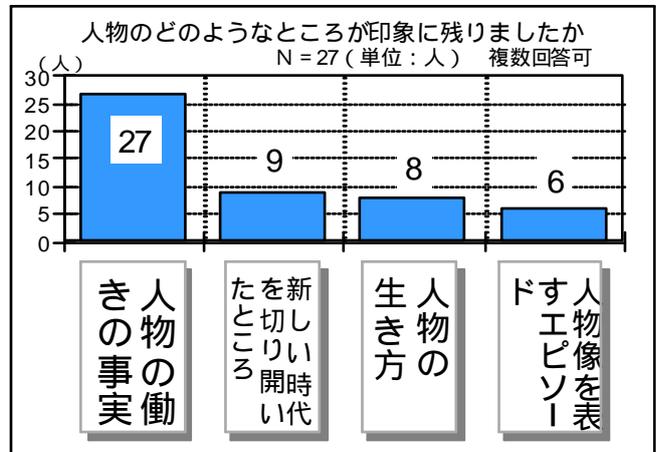
【図4】印象に残った歴史上の人物

これは、戦国時代が最近学習した時代であることが原因の一つと考えられる。しかしそればかりではなく、波乱万丈な生き方や、ライバル関係・主従関係など人物の働きを際立たせるような人間関係が子どもの印象に残る傾向が強いと言えそうである。

印象に残ったと挙げられた15名の人物について教科書の資料を調べると、本文に名前のみが掲載されている人物は1名で、他の14名は本文以外に肖像画や絵図など、複数の資料が掲載されていた。このことから、人物にかかわる資料が児童の印象に大きな影響を与えていると予想される。

(イ) 人物の学習で印象に残った具体的内容について

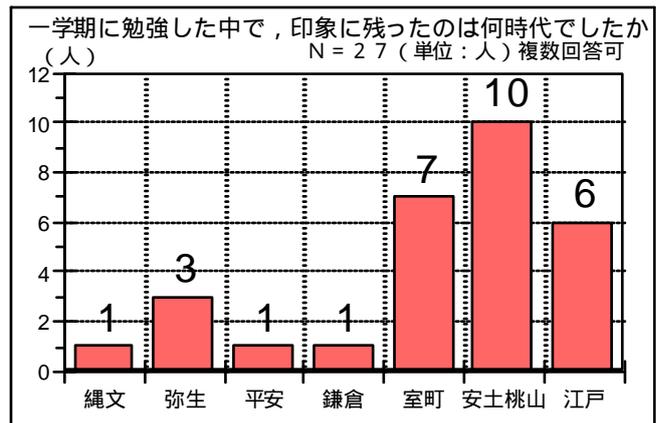
【図5】は、人物について学習した中で、印象に残った具体的内容についての調査結果である。結果を見ると、「人物の働きの事実」が印象に残っている児童が一番多い。「新しい時代を切り開いたこと」が印象に残っている児童が次に多かった。続いて、「人物の生き方」が印象に残り、共感的な思いを持った児童、人物同士の間関係や人物像を表すエピソードが印象に残っている児童の順であった。このことから、印象が人物の業績そのものに偏っている傾向が見られるので、人物の思考や行為、周りの人々の協力、社会への影響など、業績達成にいたるまでの過程に目を向けさせる工夫が必要と考える。



【図5】人物の学習で印象に残った具体的内容

(ウ) 一学期の学習で印象に残った時代について

【図6】は、一学期に学習した中で、印象に残った時代についての調査結果である。結果を見ると室町時代、安土桃山時代、江戸時代と、現代に近い時代が印象に残ったとする児童が多い一方、縄文時代や弥生時代など、現代から遠い時代が印象に残ったとする児童もいることがわかる。特に弥生時代は、印象に残った人物はあげられていないにもかかわらず、時代としては印象に残ったと3人の児童が答えている。



【図6】一学期の学習で印象に残った時代

【表5】印象に残った人物の時代別のべ人数

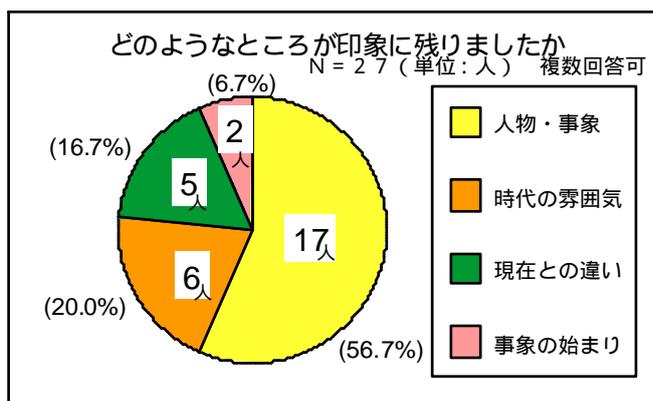
飛鳥時代	1人	室町時代	5人
奈良時代	1人	安土桃山時代	21人
平安時代	5人	江戸時代	6人
鎌倉時代	4人		

人物と時代との関連を見ると、印象に残った人物と時代が一致している児童は27人中11人とどまっている。また、【表5】に示した印象に残った人物の時代別のべ人数と比べると、平安時代や鎌倉時代はそれほど印象に残っていないことがわかる。

これらのことから、人物の働きとその時代がしっかりと結び付いていない面が見受けられるため、年表などを活用しながら、人物の働きとその時代をつなげていく工夫が必要である。

(I) 印象に残った時代の具体的内容について

【図7】は、印象に残った時代の具体的内容についての調査結果である。結果を見ると、その時代の人物や歴史的な事象が印象に残っていると答えた児童が一番多かった。次いで「戦いがなくなり平和になった」など、時代全体の雰囲気を挙げた児童、「着ている物が違う」など、現在との違いを挙げた児童、「米作りが始まったから」など、ある事象の始まりを挙げた児童の順であった。



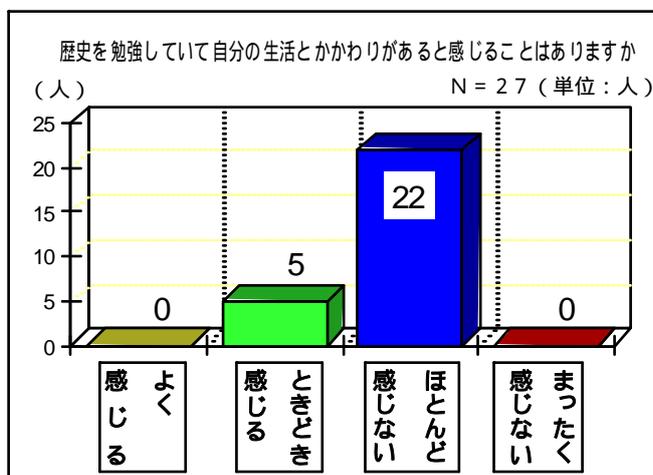
【図7】印象に残った時代の具体的内容

縄文時代から鎌倉時代は現在との違いや事象の始まりが印象に残ったとする児童が多く、室町時代から江戸時代は人物の業績や時代全体の雰囲気が印象に残ったとする児童が多い。このことから、人物の働きと、時代背景、現在との違い及び共通点をバランスよく関連付けて指導していくことが必要と考える。

イ 歴史と自分の生活とのかかわりについての児童の実態

(ア) 歴史と自分の生活とのかかわりについての意識

【図8】は、歴史と自分の生活とのかかわりを感じたことがあるかについて調査した結果である。結果を見ると、「ほとんど感じない」と答えた児童が27人中、22人である。このことから、学級全体の8割以上の児童が、歴史の学習内容と日常の生活とのかかわりをあまり意識していないことがわかる。このことから、児童が人物とのかかわりに気付く場面を設定し、自分の生活を見つめ直させることが大切であると考える。



【図8】歴史と自分の生活とのかかわりの意識

(イ) 歴史と自分の生活とのかかわりをどのような時に感じたかについての実態

歴史を勉強していて自分の生活とのかかわりを「ときどき感じる」と答えた5人の児童から、次のような5つの回答があった。

- ・歴史的な建物や古い建物を見たとき、この人が建てたのかと思う
- ・弥生時代には米作りや漁をしていたのだけれど、ぼくたちも米や肉や魚を食べているから、関係があると思う
- ・家に刀があって、昔はこういうもので戦ったり切ったりしていたのかと思った
- ・貧乏な農民の暮らしなどを勉強すると、食べ物などを無駄にしてはいけないと思う
- ・服装や使っている道具などが今とは違うので、どういうふうになってきたのかと考えることがある

(3) 実態調査の結果から明らかになったことと手だての試案作成上の配慮事項

明らかになったこと	手だての試案作成上の配慮事項
・人物の働きの事実が印象に残っている一方、業績達成のための人物の思考や行為、社会への影響や価値などはあまり印象に残っていないこと	・人物の思考や行為、社会への影響や価値について、人物カードを用いて整理する場面や段階に応じたエピソードを紹介する場面を設定する
・学習する人物の働きを際だたせる人々の存在があると、より強く印象に残る傾向があること	・人物を支えたり影響を与えたりした人々について、エピソードや追体験の場での組み入れ方を工夫する
・印象に残った人物と時代の結びつきが弱いこと	・年表などを用いて、人物の働きとその時代との結びつきを意識させる
・学級の8割以上の児童が歴史の学習と自分の生活とのかかわりをほとんど感じていないこと	・自分の生活とのかかわりを感じさせるために、「身近な生活」それにつながる「人物の働き」という流れで資料や話題の提示を行う

3 小学校歴史学習で人物の働きを理解する力を育成するために人物を身近に感じることのできる場面を工夫した学習指導の手だての試案の作成

(1) 手だての試案

実態調査から明らかになったことと試案作成上の配慮事項に基づき、人物を身近に感じることのできる場面の工夫を取り入れた単元の手だての試案を、次の【表6】ように作成した。

【表6】人物を身近に感じることのできる場面の工夫を取り入れた単元の手だての試案

単元の流れ	指導の手だて	指導上の留意点
<b>1 人物と出会う</b> ・人物の働きに関する事実のとらえ <b>2 学習問題を設定する</b> ・人物の働きについての疑問点の整理 <b>3 人物の行為やその理由を類推する</b>	・人物の働きと自分の生活とのかかわりに気付く場面の設定	・現在 人物の働き以前 人物の働き以後の順に資料提示を行う ・現在及び、人物の働きの前後の資料を比較させ、「なぜ?」、「どうやって?」という疑問や追究意欲を持たせる工夫を行う ・現在の生活では常識と感じているものが、学習する人物の働きと深いかかわりがあると気付かせる ・現在と人物が生きた時代との具体的なつながりを押さえ、時間の隔たりを小さくさせる ・年表を用いて、時代背景と人物の働きの流れを押さえさせる ・ワークシートを活用し、学習した事実を整理させる ・人物像が端的に現れているエピソードを紹介する
<b>4 問題を追究する</b> ・人物の働きにかかわる事象の整理 ・行為の理由の関連付け ・目的実現の理由の関連付け <b>5 追究したことを基に学び合う</b> <b>6 学習問題を解決する</b>	・人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する場面の設定	・悩みや苦勞・葛藤の追体験の場を設定し、児童の持つ人物のイメージを揺さぶる ・工夫や努力の追体験の場を設定し、困難を克服し社会の発展に貢献した強い意志や行動力に触れさせる ・人物と児童の持つ人物像の間にある「ずれ」を縮め、思考の隔たりを小さくさせる ・追体験の場を通して学んだことを基に、人物の行為の理由や、目的が実現された理由を歴史的背景をふまえて整理させる ・追体験の場に、人物を支えたり影響を与えたりした人々を位置付ける ・ワークシートを活用し、学習した事象相互の関連を整理させる ・業績達成の過程にあった苦勞や努力に関するエピソードを紹介する
<b>7 かかわりを広げる</b> ・人物の働きの価値の整理 ・人物の働きから学んだ大切な考えの交流	・人物の働きと自分の生活とのかかわりに気付く場面の設定	・人物にゆかりのある郷土の史跡や資料、先人との結び付きに気付く場を設定し、人物の働きが全国へ広がったことに気付かせ、価値を考えさせる ・自分の身近な地域と、人物の活動とのつながりをおさえ、空間の隔たりを小さくさせる ・ワークシートを活用し、現在につながる人物の働きの価値を整理させる ・人物の働きから学んだ、よりよい生活をしていくために大切だと感じたことについてまとめ、交流させる ・人物の未来への思いが込められているエピソードを紹介する

(2) 検証計画

授業実践をとおして手だての試案の有効性を見るために次のような検証計画を作成し、検証を進めることとする。

ア 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力の育成状況

(ア) 構成要素の「事実をとらえる力」について、テスト法による調査問題を作成して事後に実施する。その結果と一学期単元テストの知識・理解領域とを比較し、分析・考察する。

(イ) 構成要素の「関連を考える力」、「価値を見つける力」について、テスト法による調査問題を作成し、同一内容で事前事後に実施してその結果を分析・考察する。また、学習單元にかかわる「関連を考える力」、「価値を見つける力」についての調査問題を作成し、事後に実施して結果を分析・考察する

(ウ) 人物の働きについての関連や価値を考えることに関する意識について、同一内容で事前事後に実施して結果を分析・考察する。

【表7】は、検証内容と方法及び処理・解釈の方法を示したものである。また、【表8】は、ワークシートへの記述内容、授業中の様子などから構成要素の育成状況を判断するための視点を示したものである。

【表7】検証内容と方法及び処理の方法

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
歴史学習における人物の働きを理解する力の育成状況	事実をとらえる力 関連を考える力 価値を見つける力	について ・多肢選択及び記述形式のテスト法で事後に実施	・結果について、一学期の単元テストの知識・理解領域と比較し、分析・考察する ・記述問題については、判断するための基準に基づき、結果について分析・考察する
		について ・記述形式のテスト法で事後に実施	・判断するための基準に基づき、結果について分析・考察する
		について ・ワークシートへの記述 ・授業中の様子	・判断するための基準に基づき、ワークシートへの記述内容及びの活動の様子などについて分析・考察する
社会の学習に関する意識の状況	関連を考える 価値を見つける	・評定尺度を設けた調査問題で事前事後に実施	・結果について、 <sup>2</sup> 検定(変化の検定)により分析・考察する

【表8】構成要素の育成状況を判断するための視点と基準

検証内容	判断の視点	判断するための基準
事実をとらえる力	・人物の働きに関する事実をとらえることができるか	杉田玄白の働きにかかわる事実をとらえている ・杉田玄白 ・「ターヘル・アナトミア」 ・「解体新書」 ・蘭学 伊能忠敬の働きにかかわる事実をとらえている ・伊能忠敬 ・全国測量と正確な日本地図の作成 ・測量の道具 ・測量を志した年齢 大槻玄沢と杉田玄白のかかわりについてとらえている ・大槻玄沢 ・蘭学の発展 ・「重訂解体新書」 ・出身地(一関) 人物をめぐる歴史的背景についてとらえている ・鎖国政策による外国とのつながりの規制 ・オランダ語を理解することの難しさ ・中国の医学書を基本にしていた当時の日本医学の状況

関連を考える力	・人物の働きに関する事象相互の関連を説明することができるか	杉田玄白が解体新書を作成した理由を関連付けて説明している ・当時の日本の医学状況 ・真実を伝えようとする使命感 ・仲間の存在 鎖国体制の下，解体新書が完成できた理由を説明している ・あきらめない粘り強さ ・多くの人々の協力 ・強い願いに支えられた地道な努力の積み重ね 蘭学の広がりについて説明している ・蘭書出版の増加 ・岩手県の人物とのつながり
		伊能忠敬が日本全国を測量した理由を関連付けて説明している ・正確な地図を必要としていた江戸幕府の状況 ・正確な地図を作りたいという忠敬の願い ・仲間の存在 日本地図作成の様子と地図完成の理由について説明している ・あきらめないねばり強さ ・多くの人々の協力 ・強い願いに支えられた地道な努力の積み重ね 気仙地方の地図作成の様子について，具体的な地名や当時の気仙地方の人々の協力の様子を交えて説明している
価値を見つける力	・学習した内容をふまえ，人物の働きの価値を見つけることができるか	杉田玄白による「解体新書」出版が当時の社会に与えた影響と現在とのつながりを見つけている ・医学の発展と現在とのつながり ・蘭学の発展と現在とのつながり 杉田玄白の考え方や行為から，勇気を持って真理を追究することや困難に立ち向かうことなどの大切さを見つけ，自分の生活に生かすことを考えている
		伊能忠敬の地図が，現在の地図と比べてもほぼ違いがないほど正確に作られていたことを見つけている 伊能忠敬の考え方や行為から，年齢や身分に関係なく自分の夢を追い求め続けることの尊さや，地道に粘り強く努力を重ねることなどの大切さを見つけ，自分の生活に生かすことを考えている

#### イ 手だてに関する意識の状況についての調査計画

指導の手だてが児童にどう受け止められたのかを把握するために，手だてに関する意識の状況についての調査計画を【表9】のように作成して，事後に実施し，分析・考察を行う。

【表9】手だてに関する意識にかかわる調査計画

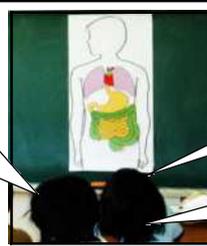
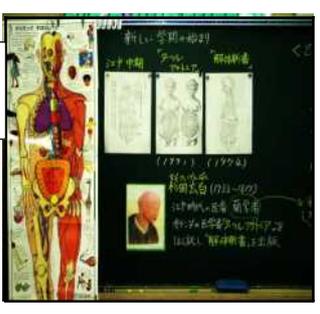
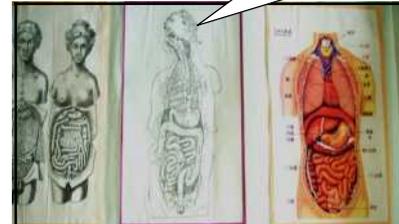
調査項目	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
手だてに関する意識の状況	・人物を身近に感じることのできる場面を取り入れた歴史の時間の意識の状況	・評定尺度を設けた質問紙による意識調査を事後に実施	・プラス反応，マイナス反応の割合により分析・考察する

#### 4 授業実践及び実践結果の分析と考察

##### (1) 人物を身近に感じることのできる場面を工夫した手だての試案に基づく授業実践の概要

陸前高田市立高田小学校第6学年(男子14名 女子13名 計27名)を対象に，手だての試案に基づいて作成した指導展開案にしたがい，平成19年8月31日から9月18日まで授業実践を行った。授業実践の概要は，【資料1】～【資料7】に示したとおりである。

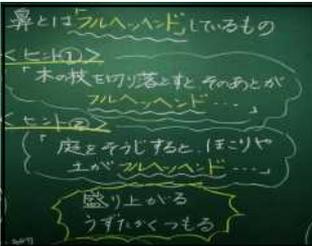
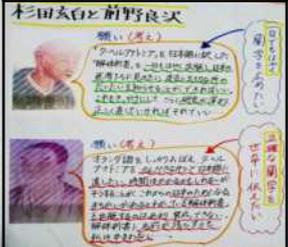
【資料1】「人物を身近に感じることでできる場面」を取り入れた授業実践の概要（1/7時）

本時の目標	杉田玄白にかかわる歴史的背景と基本的事実について理解し、杉田玄白に興味を持ってその思考や行為を考える		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
段階	学習の流れ（ 教師の働きかけ → 児童の反応 ）		指導上の留意点
導入	<p>1 自分の体の中がどのようなつくりになっているか話し合う</p> <p>みんなは、自分の体の中がどうなっているか知っていますか？ どうして知っていますか？</p>  <p>ねんざをした時レントゲンをとったら、骨の形がうつってた</p> <p>心臓はここ。胃はここ。働きは・・・ 本やテレビで見たことがあるし、理科の勉強でもやったことがある・・・</p> <p>お医者さんは、自分で観察したり解剖したりしている。体のことをよく知っているから、その人にあった治療ができるんだと思う</p> <p>2 江戸中期まで使われていた人体図と解体新書の人体図を比較する</p> <p>これは、江戸時代に使われていた医学書なんだけど・・・</p>  <p>うわっ、私が知っているのとは全然違う！</p> <p>昔は、これを使って治療していたのかあ。これじゃ治らないかも・・・</p> <p>並べると、解体新書が今に近いのがよく分かる</p> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で体の中を確認した。なぜ、医者は実際に体の中を見ずに治療できるのかを話し合わせた。</li> <li>現在、東医宝鑑、解体新書の順に人体図を提示し、相違点や共通点を考えさせた。</li> <li>年表を見ながら、解体新書が現在の人体図に近いことに気付かせ、時間の隔たりを小さくさせるよう工夫した。</li> <li>杉田玄白への児童の興味が高まったところで基本的事実を押さえ、杉田玄白の年表を用いて事実を整理した。</li> </ul>
展開	<p>3 図などから読み取ったことを基に疑問点を整理する</p> <p>杉田玄白についてどんなことを知りたいですか</p>  <p>鎖国・・・ オランダ語・・・ 中国の医学・・・ 大変だったろうなあ</p> <p>杉田玄白</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうやって作ったんだろう？</li> <li>・なぜ翻訳しようと思ったのかな？</li> <li>・どんなことに役立ったのかな？</li> </ul>  <p>4 単元の学習問題を設定する</p> <p>杉田玄白と解体新書の秘密をさぐろう</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>鎖国や言葉の壁などの歴史的背景を確認し、玄白の願いと目的を押さえた。</li> <li>歴史的背景と玄白の働きの間にある矛盾点を挙げさせながら、疑問点を整理し、単元の学習問題につなげた。</li> </ul>
開	<p>5 人物の思考や行為を類推する</p> <p>杉田玄白は どうやって解体新書を完成させたんだろう？</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に切り開いて描いたんじゃないかな</li> <li>・一人では無理だと思うから誰かと協力したと思う</li> <li>・ひたすら写したのでは・・・？</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>押さえた背景の下、杉田玄白になったつもりで、どのようにして解体新書を完成させたのか予想させ、思考の隔たりを小さくさせるように工夫した。</li> </ul>
終末	<p>6 学習内容を振り返る（ワークシート）</p>  <p>わしが、「解体新書」を作った江戸の医者、・・・</p> <p>杉田玄白になった感じがして、書きやすいよ。</p> <p>7 次時の学習内容を知る</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介形式のワークシートを準備し、人物を身近に感じられるように工夫した。</li> <li>「ターヘル・アナトミア」入手時のエピソードを紹介して、人物への興味を高めるよう工夫した。</li> </ul>

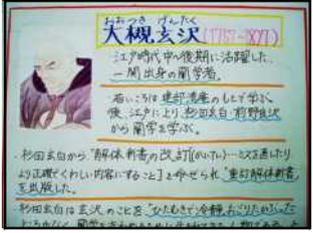
【資料2】「人物を身近に感じることのできる場面」を取り入れた授業実践の概要（2 / 7 時）

本時の目標	「腑分け」にかかわる擬似的な追体験をととして、杉田玄白が「解体新書」を作成しようと決心した理由について、歴史的背景と関連付けて考える		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
導入	学習の流れ（ 教師の働きかけ → 児童の反応 ） 1 前時の学習を振り返る 2 学習問題を設定する 杉田玄白が「解体新書」作成を決心した理由を調べよう		指導上の留意点 ・業績と歴史的背景の矛盾点から、学習問題を設定した。
展開	3 「腑分け」に行くまでの杉田玄白の気持ちを考える 腑分けに行く時の玄白の様子を調べてみよう 腑分けしたのではなく、腑分けを見学したのか。玄白たちにとっては待ちに待ったことだったんだね 今までの勉強と「ターヘル・アナトミア」、どちらが本当なのか、分かる日が来たんだね 4 「腑分け」を追体験し、「腑分け」を見た杉田玄白の気持ちを考える 腑分けを見学している時の玄白たちの気持ちを考えてみよう こ、これはいったい……。今まで勉強してきたことは…… 本当に正確なのは だ！ 体の中を、自分の目で確かめることができたぞ！ これが心臓じゃ。これが肺で、これが胃じゃよ。わしは、何度か見とるがのう…… 5 腑分けの帰り道、玄白たちが話し合ったことを考える 腑分けの帰り道、玄白たちはどんなことを話しただろう？ すごいものを見てしまった。罰せられるかもしれないが、こうしてはられない！ 腑分けの帰り道 今までの私たちは 待ちに待った 腑分け…？ 体の中があのようになっていたとしま… 「ターヘル・アナトミア」を日本語に直せば、直せば、日本の医学に役立つ 「善は急げ」じゃ、さあ、私の家で、明日から始めよう。 前野良沢 1825 6 杉田玄白たちが解体新書の作成を決心した理由をまとめる 杉田玄白が解体新書を作成しようと決心した理由を考えよう どちらが正しいか確かめることができたので…… 「ターヘル・アナトミア」を翻訳すれば、病気の人を助けられる……		・「蘭学事始」から、腑分けを待ち望んでいた玄白の思いや良沢の存在に気付かせた。 ・追体験で生かすため、腑分けをした人物や玄白たちの様子をpushさせた。 ・追体験では、腑分け見学を望んだ理由をpushさせた後、人体模型を用いて動作化を行った。役割に応じたセリフを考えさせ、追体験に臨場感を持たせて思考の隔たりを小さくさせる工夫とした。 ・思考の流れが切れないよう、連続した追体験の場を設定した。 ・安易に翻訳を決意したととらえないよう、歴史的背景を再確認し、葛藤があったことをpushさせた。 ・理由を一つに絞るのは困難なため、グループで交流し、多様な考えに触れるよう工夫した。
終末	7 学習内容を振り返る（ワークシート） 医者として、正しいことを伝えたい…… 8 次時の学習内容を知る		・玄白が良沢を腑分けに誘ったエピソードを紹介して、次時の学習への興味を持たせるよう工夫した。

【資料3】「人物を身近に感じることのできる場面」を取り入れた授業実践の概要（3 / 7時）

本時の目標	「解体新書」が完成するまでの苦労や努力を追体験して杉田玄白たちの思いや歴史的背景について理解し、「解体新書」の出版が当時の社会に与えた影響を考える		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
階	学習の流れ（教師の働きかけ ← 児童の反応）		指導上の留意点
導	1 前時の学習内容を振り返る 2 学習問題を設定する 杉田玄白たちはどのようにして「ターヘル・アナトミア」を翻訳したのだろう		・翻訳の障害となった点を考え、学習課題を設定した。
展	<p><b>3 翻訳を始めた時の玄白の気持ちを考える</b> 翻訳を始めた玄白たちの様子を調べてみよう</p>  <p>翻訳を決心したのはいいけど、大丈夫なのかなあ・・・</p> <p>オランダ語をどのくらい知っていたの？</p> <p>「ターヘル・アナトミア」翻訳の苦労について 翌日、良沢の家で昨日のことを話し合った。まず、あの「ターヘル・アナトミア」の原書に向かってみたが、まったく、艦（ろ）も舵（かじ）もない船が大海原に乗り出したようで、ただただ、ひろびろと果てしなく広く、よりつくところとてなく、ただもう、あきれにあきれられるばかりであった・・・。「蘭学事始」より～</p> <p><b>4 「ターヘル・アナトミア」の翻訳体験をし、翻訳の苦労を知る</b> 玄白たちのおこなった翻訳を体験してみよう</p>  <p>こんなに苦労したなんて・・・少し進んだだけでうれしいというのがわかるなあ</p> <p>鼻はフルヘッヘンド？木の枝？葉っぱ？こ、これは大変だ！こんなものの連続だったの？</p>  <p>前野良沢と杉田玄白、二人がいたから解体新書は完成したんだね</p> <p>二人は全然違うタイプだったんだ。玄白が良沢を苦手にしていただけだなあ</p>  		<p>・「蘭学事始」から、翻訳を始めた玄白の不安に触れさせ、翻訳の困難さを予想させた。</p> <p>・「ターヘル・アナトミア」の表紙を提示し、玄白と同じ経験をするという意識を持たせた。</p> <p>・二段階でヒントを与えた。考えた内容は班で検討させ、仲間と苦労や喜びを共にした玄白の思いに近付ける工夫とした。</p> <p>・翻訳への玄白と良沢の思いを紹介して共通点や相違点を考えさせ、目的実現の過程にあった人間関係や仲間の支えを確認した。</p>
開	5 「解体新書」が当時の社会にどのような影響を与えたのか考え交流する 「解体新書」完成で、どんな社会の変化があったのか考えてみよう		・蘭書出版数を示すグラフから、解体新書の出版が、医学だけでなく蘭学発展にもつながったことをおさえた。
終	6 学習内容を振り返る（ワークシート） 玄白たちががんばることができたのは、いろいろな理由が・・・		・良沢の名前が解体新書の執筆者として記述されていないことを紹介し、人物への興味を喚起した。
末	7 次時の学習内容を知る 杉田玄白になったつもりで、翻訳の苦労やできた時の喜びを書いてみよう		

【資料4】「人物を身近に感じることのできる場面」を取り入れた授業実践の概要（4 / 7時）

本時の目標	杉田玄白とかかわりのある岩手の人物について調べ、杉田玄白の思いが全国へと広がっていったことを理解する		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
段階	学習の流れ（ 教師の働きかけ ← 児童の反応 ）		指導上の留意点
導入	1 前時の学習内容を振り返る 2 学習問題を設定する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">岩手にも蘭学は広がっていたのだろうか</div>		・玄白たちの働きは社会に広がったのかと投げかけ、学習問題を設定した。
展開	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><b>3 杉田玄白とかかわりのある人物が岩手にいることを知る</b>                      杉田玄白の時代、岩手に蘭学は伝わっていたのか調べてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>玄白と同じ考えの人が一関にいたんだ!</p>  <p>一番弟子になって蘭学を発展させたのも岩手の人!?</p> </div> <div style="width: 60%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・・・まだ解体新書が出版される前、奥州一関の医官で、建部清庵という人が、はるかにわたしの名前を聞き伝えて・・・                      ・・・・この玄沢という男の性質をみると・・・オランダ医学の勉強には生まれつきの才能を持った人であった。わたしはその人柄と才能を愛して、つとめて教え導き・・・                      ~「蘭学事始」より~</p> </div> </div> <p><b>4 建部清庵と大槻玄沢について調べる</b>                      杉田玄白とつながりのある、建部清庵と大槻玄沢について調べてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>清庵は、医学について、玄白と交流をしていたのか</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>玄沢は、「解体新書」の直しを玄白に頼まれたんだって!</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>えっ？一関って、陸前高田のとなりだったの？いつの間に・・・</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>江戸から遠いのに、よく蘭学が伝わったなあ</p>  </div> <div style="width: 30%;"> <p>おかげで、たくさんの方が助かったんだよ</p> </div> </div> </div>		・「蘭学事始」から、一関出身の建部清庵及び大槻玄沢の存在に気付かせた、 ・玄白とのかかわりを調べさせ、二人が蘭学の発展に大きく関与したことを押さえた。 ・東日本や岩手県の地図で位置を確認し、空間の隔たりを小さくさせる工夫をした。 ・全国に蘭学は広がったのか予想させ、蘭学者の系譜を提示した。 ・医学だけでなく、教育や政治など現在とつながる分野で活躍した人物が多いこと、元をたどると杉田玄白へとつながることなどを確認し、蘭学が発展していった様子を押さえた。
開	<p><b>5 蘭学の広がりについて調べる</b>                      杉田玄白の弟子たちについて調べてみよう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>大槻玄沢には、たくさんの弟子がいたんだね</p>  </div> <div style="width: 60%;"> <p>杉田玄白から、福沢諭吉につながるよ。福沢諭吉って、明治時代の人だよ</p>  </div> </div> <p>医学だけでなく、いろいろなことで活躍しているよ</p>		
終末	<p>6 学習内容を振り返る（ワークシート）</p>  <p>岩手の方が、杉田玄白と関係があったのが分かってうれしかった</p>		・大槻玄沢の名前の由来を紹介し、人物への興味を喚起した。
	7 次時の学習内容を知る		

【資料5】「人物を身近に感じることでできる場面」を取り入れた授業実践の概要（5 / 7時）

本時の目標		杉田玄白の考え方や行動から、よりよく生活していくために大切だと感じたことを交流する	
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
階	学習の流れ（教師の働きかけ → 児童の反応）		指導上の留意点
導	1 前時までの学習内容を振り返る 2 学習問題を設定する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄白から学んだことを問いかけ、学習問題を設定した。</li> <li>・既習内容をまとめた教室掲示で、前時までの流れを確認した。</li> <li>・結果だけでなく、目的実現の過程について学習してきたことを押さえた。</li> <li>・時代背景をふまえて考えるよう指示し、単なる賞賛や感謝の言葉にならないよう配慮した。</li> <li>・自分の思いを持てたことを確認した後、それぞれの考えを尊重するよう約束して交流をさせた。</li> <li>・グループ内で様々な考えにふれ、人物から学ぶと同時に友達から学ぶ機会となるよう工夫した。</li> <li>・交流後、「玄白から2007年の君たちへ」「2007年の私から玄白へ」のいずれかを選択させ、メッセージを作成し、発表させた。</li> </ul>
入	杉田玄白から学んだことを考えよう		
展	<p>3 杉田玄白についての学習をとおして、生きていく上で大切だと感じたことについて考え、交流する</p> <p>杉田玄白の考え方や行動から、見習いたいと思ったことはありませんか</p>  <p>うーん、たくさんありすぎて、まとめるのが難しいぞ</p> <p>玄白の考え方で、自分の生活に生かせることはないかな</p> <p>ぼくだったら、こんなに大変なことがあったら、・・・</p> <p>私は、あきらめずに翻訳したことが・・・</p>  <p>初めて見たものを無視しなかったことがすごい・・・</p> <p>僕も同じで、あきらめずコツコツがんばったことが・・・</p>		
	開	<p>4 交流をもとに自分の考えを再構成してメッセージを作成し、発表する</p> <p>友達の考えも参考にしながら、メッセージを作ろう</p> <p>さんの考えを聞いて、私も少しまとまってきたよ</p>  <p>杉田玄白さんへ。私があなたから学んだことは・・・</p> <p>杉田玄白のつもりで、現代の私たちにメッセージをおくります</p>  <p>私は、今の様子と感謝の気持ちを杉田玄白に伝えたい</p>	
終	5 杉田玄白についての学習内容を振り返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉田玄白の学習で分かったことをまとめさせた。</li> <li>・一人の医者として最後まで努力を重ねた玄白の姿を紹介し、印象を強くするよう工夫した。</li> </ul>
末	 <p>「杉田玄白」という名前は知っていたけど、今度の勉強でどんな考えの持ち主なのかということが・・・</p> <p>6 次時の学習内容を知る</p>		

【資料6】「人物を身近に感じることでできる場面」を取り入れた授業実践の概要（6 / 7時）

本時の目標		伊能忠敬について関心を持ち、働きの基本的事実や業績達成のための工夫について調べ、その価値を考える		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面	
段階	学習の流れ（ 教師の働きかけ → 児童の反応 ）			指導上の留意点
導入	<p>1 普段使っている地図について話し合う</p> <p>みんなはどんな時に地図を使いますか</p> <p>ドライブの時、使います</p> <p>勉強で地図帳も使います。山の高さや、川の名前も書いてあります</p> <p>修学旅行の自主研修で、科学館に行くのに使ったよ</p> <p>コンピューターを使って作ってあります</p> <p>2 3種類の地図を比べ、伊能忠敬についての基本的知識をとらえる</p> <p>日本で使われてきたいろいろな地図を比べてみよう</p> <p>なんとか日本と分かるけど、形が変。今の地図とは全然違う</p> <p>伊能忠敬が作った地図は、今のとほとんど同じ</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>児童に身近な地図を話題とし、いかに生活の中にとけ込み、いかに正確かを発言から引き出した。</li> <li>伊能図と、江戸時代まで使用された地図を提示し、作られた順番を予想させた。古い順に発表しながら、伊能忠敬についての基本的知識を押さえた。</li> <li>忠敬の年表を提示し、時間の隔たりを小さくさせる工夫とした。</li> </ul>
	展開	<p>3 伊能忠敬についての学習問題を設定する</p> <p>伊能忠敬と日本地図についてさぐろう</p> <p>4 地図作成における伊能忠敬の働きについて調べる</p> <p>伊能忠敬はどのようにして日本地図を作ったのか調べてみよう</p> <p>なるほど、この道具はこう使ったのか。いろいろ工夫したんだなあ</p> <p>すごい距離と時間だ。それも徒歩で。しかも56歳から・・・</p> <p>5 測量できなかった場所を、忠敬はどのように処理したかを考える。</p> <p>どうしても測量できない場所があった時、忠敬はどうしたでしょう</p> <p>仕方がないから、だいたい記録したと思う</p> <p>ひょっとして、「カン」で・・・？でも、忠敬の考えからするとちがうかな・・・</p> <p>測量できないのは仕方がない。正直にそう書いたと思う</p> <p>きちんと準備して、もう一回測量に行ったのかも</p>		
終末		<p>6 伊能図の正確さを知り、その価値を考える</p> <p>伊能忠敬の地図はどれくらい正確なのだろう</p> <p>ほとんど今の地図と違いがない・・・。コンピューターも車もないのに・・・</p> <p>7 学習内容を振り返る</p> <p>今日はすごくいっぱい勉強したぞう</p> <p>8 次時の学習内容を知る</p>		

【資料7】「人物を身近に感じることのできる場面」を取り入れた授業実践の概要（7 / 7時）

本時の目標	気仙地方における伊能忠敬の足跡について理解するとともに、伊能忠敬の学習をとおして大切だと感じたことを交流する		
手だてにかかわる場面	思考の隔たりを小さくさせる場面	時間の隔たりを小さくさせる場面	空間の隔たりを小さくさせる場面
導入	学習の流れ（ 教師の動きかけ → 児童の反応 ） 1 前時の学習内容を振り返る 2 学習問題を設定する 伊能忠敬の足跡は陸前高田にどのように残っているのだろうか		指導上の留意点 ・陸前高田でも伊能忠敬は測量したのかと問いかけ、学習問題を設定した。
展開	3 地域に伝わる資料や地図をもとに、気仙地方での伊能忠敬の足跡を調べる 伊能忠敬が本当に陸前高田を通過していったのか調べてみよう 忠敬を案内したのは、店の人のご先祖様なんだって あっ、気仙町、高田町、米崎町の地名だ。あ、小友町に泊まってる！ほめられてる！ 地名があるよ。昔はこの辺りを高田村と呼んでいたんだね これ、200年以上前の地図なのか・・・ 高田にこんな地図があるの知らなかったよ 測量日記の地名をつないだら、海岸線にぴったり！ 時間はかかるけど、正確さを求めたんだね		・忠敬の測量日記を調べ、知っている地名を探させた。 ・地名を陸前高田市の白地図に表し、海岸沿いに測量したことを確認した。 ・気仙地方の伊能図の写しを観察させた。これは、忠敬の案内役を務めた人物の子孫である陸前高田在住の方から借りたものである。 ・測量日記の記述と古地図を対応させ、くり返し測量したことを押さえた。
展開	4 伊能忠敬の日本地図が正確な理由を考える 忠敬の日本地図が正確な理由を考えてみよう 地道な作業や仲間の支えが正確な地図につながっているんだ		・伊能図が正確な理由を、学習内容から具体的に考えさせ、忠敬の考え方や行為から大切だと感じたことを交流させた。
開	5 伊能忠敬についての学習をとおして、大切だと感じたことを交流する 伊能忠敬を勉強してみて、大切だと考えたことをまとめよう。 私が感じた大切な考えは・・・ なるほど、さんは、そこに目をつけたのか 勉強に年齢は関係ないという考え方が・・・		・杉田玄白の時のように、互いの考えを尊重するよう指示し、歴史上の人物から学ぶと同時に友達からも学ぶ機会とできるよう工夫した。
終末	6 杉田玄白と伊能忠敬についての学習を振り返る 僕が、杉田玄白や伊能忠敬について勉強して思ったことは・・・		・杉田玄白と伊能忠敬、二人の学習をとおして感じたことを記述させ、単元のまとめとした。

(2) 実践結果の分析と考察

検証計画にしたがって、人物の働きを理解する力の三つの構成要素「事実をとらえる力」、「関連を考える力」、「価値を見つける力」について分析・考察を行った。

ア 事実をとらえる力の育成状況

【表10】は、一学期単元テストの「知識・理解」の観点にかかわる部分と、本単元の事後テストの「事実をとらえる力」の平均正答率を表したものである。本単元の事後テストの問題は、難易度が同程度になるよう、一学期単元テストを分析し、人物の名称の記述、人物の業績及び資料を選択する内容とした。

【表10】一学期の単元テスト・事後テストの正答率

	正答率
一学期単元テスト	84.6%
本単元の事後テスト	93.5%

この表から、一学期単元テストの正答率に比べ、本単元の事後テストの正答率が8.9%高くなっていることが分かる。このことから、「人物を身近に感じることでできる場面」を組み入れたことにより、「事実をとらえる力」が伸びてきたことが推察される。

【表11】は、事後テストの設問内容及び正答率である。第一問は、どの人物も90%以上の正答率で、平均正答率は97.5%である。第二問は、どの人物も90%以上の正答率で、平均正答率は93.8%である。第三問は、伊能忠敬と大槻玄沢が89%、杉田玄白が96%の正答率で、平均正答率は91.4%である。また、三問を通じた人物別の正答率は、伊能忠敬と大槻玄沢が92%、杉田玄白が96%である。大槻玄沢は小学校学習指導要領に掲げられている人物ではないが、杉田玄白の働きにかかわる郷土の先人として取り上げた。その名称や業績の正答率が高いのは、それだけ児童たちの興味を引き、意欲的に学習することができた結果といえる。一方、伊能忠敬と大槻玄沢に関連する資料の正答率が他の問題に比べて低くなっている。伊能忠敬については人物に関係のない資料を選択したことによる誤答であるのに対して、大槻玄沢については杉田玄白にかかわる資料を選択したことによる誤答である。これは、杉田玄白と大槻玄沢の関係を学んだ際、大槻玄沢の働きが強くイメージに残り、両者の働きを区別できなかったことが原因である。授業の中で二人の働きや関係を明確にするとともに、選択肢として提示する資料を吟味することが必要であった。

【表11】事後テストの設問内容と正答率 N=27

番号	設問内容	正答率(%)	平均正答率(%)
1	伊能忠敬の名称	92.6	97.5
	大槻玄沢の名称	100	
	杉田玄白の名称	100	
2	伊能忠敬の業績	96.3	93.8
	大槻玄沢の業績	92.6	
	杉田玄白の業績	92.6	
3	伊能忠敬の資料	88.9	91.4
	大槻玄沢の資料	88.9	
	杉田玄白の資料	96.3	

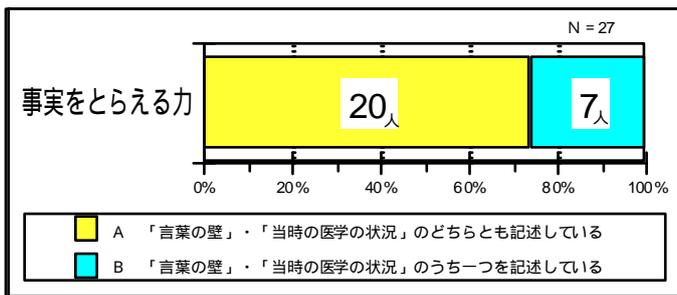
【表12】は、事後テストでの、歴史的背景をとらえることができたと判断した具体的な記述例である。「解体新書」作成に勇気が必要だったことについて、児童全員が、「江戸幕府の鎖国政策」を挙げて説明できた。これは、「思考の隔たりを小さくさせる場面」で取り上げた「蘭学事始」の内容から、翻訳を決意するまでの杉田玄白の葛藤について考えることができたためと思われる。また、「解体新書」作成の難し

【表12】「歴史的背景」にかかわる具体的な記述例 N=27

歴史的背景をとらえることができた判断した例	人数
【「解体新書」作成に勇気が必要だった理由】	
鎖国をしていたため、外国の本を日本語に直して世の中に広めることは、幕府にばっせられる可能性があった。	27人
【「解体新書」作成が難しかった理由】	
オランダの本は貴重なものだったし、オランダ語がわかる人もほとんどいなかった。-----（言葉の壁）	25人
そのころは、中国から伝わった医学書が正しいと考えられていて、体の中を本当に知ろうとする医者が少なかった。（当時の医学の状況）	22人
「親からいただいた体を傷つけることはいけない」と教えられていたので、解剖をして実際に体の中を見たことがなかった。（当時の医学の状況から発展した事実）	5人

さについての説明で、オランダ語という「言葉の壁」を挙げた児童は93%，中国の医学書を基にしている「当時の医学の状況」を挙げた児童は81%，解剖などの「当時の体に対する考え方」を挙げた児童は19%であった。内容のかかわりが深いこともあり、「当時の体に対する考え方」を挙げた児童は、全員が「当時の医学の状況」も挙げていた。

【図9】は、【表12】に示した事後テストの具体的な記述についてまとめたものである。判断にあたり、江戸時代全体の特徴である鎖国政策を押さえていることを前提とした。また、杉田玄白を含む当時の医者たちが「実際に解剖を見ていない」という事実は、「当時の医学の状況」としてとらえた。



【図9】事実をとらえる力の育成状況（事後テスト：記述）これは、この事実が、「当時の医学の状況」を押さえた時に生じた、「医者なら当然解剖していたはずなのになぜ中国の医学書を手本にしたのか」という疑問から発展してきた事実のためである。

以上をふまえ、鎖国政策については全児童がとらえていたことから、「言葉の壁」と「当時の医学の状況」の二点を記述できた児童をA，二点のうちどちらかを記述できた児童をBと判断した。その結果，Aの児童が74.1%（27人中20名），Bの児童が25.9%（27人中7人）であり，すべての児童が歴史的背景を適切にとらえることができた。杉田玄白の思考や行為を追体験する場面では，腑分けにかかわっている鎖国や医学状況などの歴史的背景を確認した後に追体験を行った。腑分けにかかわる追体験をした後には，再度鎖国や医学状況を振り返った。このことにより，歴史的背景が児童の意識に明確に位置付けられたものと考えられる。また，「当時の医学の状況」の事実から「なぜ解剖しようと思わなかったのだろうか？」という疑問を持ち，「当時の体に対する考え方」の事実へたどりついた児童もいた。これは，現在の資料と学習する時代の資料を比較する場面での話し合いが基となり，基本的な歴史的背景だけでなく，当時の社会全体にかかわる歴史的背景にまで目を向けることができたためと考える。

【資料8】は、「事実をとらえる力」にかかわるワークシートへの記述や授業中の発言，授業の感想について分類したものである。自己紹介形式のワークシートには，語りかけるような表現で記述する児童が多く見られた。

【資料8】「事実をとらえる力」にかかわるワークシートへの記述・発言・授業の感想

人物に関する基本的な知識についてのワークシートへの記述

- ・私は杉田玄白。みんなの時代から230年ほど前に江戸で活躍した医者じゃ。オランダ語の「ターヘル・アナトミア」を見たら，私たちが手本にしていた中国の医学書と全然違うではないか。私は実際に解剖を見学して真実を確かめ，「解体新書」を作ったんじゃない。（同内容17人）
- ・私は江戸で活躍した医者杉田玄白です。正しいとされていた中国の医学より，「ターヘル・アナトミア」の方が正しいことを知り，日本語に直せば病気で苦しむ人が少なくなるだろうと考え「解体新書」を作りました。（同内容10人）

人物に関する歴史的背景についてのワークシートへの記述

- ・「解体新書」を作るのはなかなか大変だったよ。鎖国だから，幕府にばれたら何をされるか分からないし，オランダ語も全然分からなかったしなあ。（同内容20人）

授業の感想

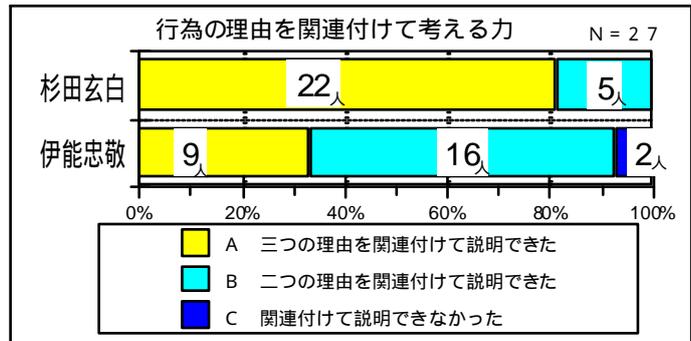
- ・「解体新書」の図は，今の写真とほとんど同じなのでびっくりした。（同内容24人）
- ・オランダ語が分からないのに，どうやって日本語にしたのか？（同内容23人）
- ・昔の人たちは，あんな図で治療されていたと分かって驚いた。間違っって治療されることもあったと思う。（同内容18人）
- ・私だったら「ターヘル・アナトミア」を見ても「うそでしょ〜。」と思うけど，杉田玄白は「どっちが本当なのか」と考えていて，すごいと思った。（同内容16人）

「時間の隔たりを小さくさせる場面」において，常識を揺さぶったり，生活との具体的なかかわりに気付かせたりしたことがこれらの記述につながったと考える。授業の感想には，現在と人物の時代との資料の違いや玄白の行為への驚きなど，具体的な事実が記述されていることがわかる。

これらのことから，人物を身近に感じることでできる場面を組み入れた指導は，「事実をとらえる力」を育成するために，有効であったと考える。

## イ 関連を考える力の育成状況

【図10】は、「関連を考える力」について、行為の理由を関連付けて考える力の育成状況をまとめたものである。杉田玄白が「解体新書」作成を決意した理由として、中国の医学書を基にしていた「当時の医学への疑問」、真実を世の中に伝えようとする「使命感」、決心を後押しした「仲間の存在」を設定した。そして育成状況の判断基準とし

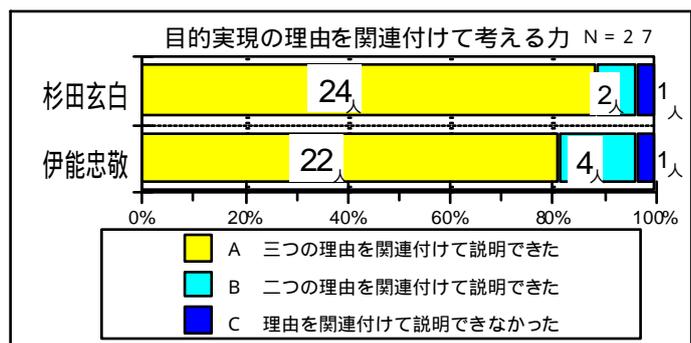


【図10】「関連を考える力」の育成状況 (事後テスト:記述) て、作成のきっかけとなった「当時の医学への疑問」を前提とし、三点を関連付けて説明している児童をA、「当時の医学への疑問」と「使命感」、あるいは「当時の医学への疑問」と「仲間の存在」を関連付けて説明している児童をBとした。また、伊能忠敬が測量を行った理由として、正確な地図を必要としていた「江戸幕府の状況」、正確な地図を作りたいという「忠敬の願い」、忠敬の決心を支えた「仲間の存在」の三点を設定した。そして育成状況の判断基準として、三点を関連付けて説明している児童をA、二点を関連付けて説明している児童をBとした。

杉田玄白についての結果を見ると、Aの児童が81.5%(27人中22人)、Bの児童が18.5%(27人中5人)となっており、27人全員が杉田玄白の行為の理由を関連付けて説明できたことが分かる。これは、人物の葛藤や、行為の決め手となった出来事を追体験する場面の工夫が有効に働いたためと考える。歴史的背景の確認後に「腑分け見学」「腑分けの帰り道」と、連続して設定した追体験の場は、「当時の医学への疑問」「人間としての使命感」「仲間の存在」という一連の流れを作るために有効であった。杉田玄白との思考の隔たりを小さくさせる場面は、解体新書作成の決心にいたる具体的な思考の流れを、児童に再構成させるために効果があったと考える。

伊能忠敬についての結果を見ると、Aの児童が33.3%(27人中9人)、Bの児童が59.3%(27人中16人)、Cの児童が7.4%(27人中2人)となっており、90%以上の児童が伊能忠敬の行為の理由を関連付けて説明できたことがわかる。しかしBの児童を見ると、「忠敬の願い」と「仲間の存在」を関連させて記述し、もう一つの理由として「江戸幕府の状況」を単独で記述している児童が多かった。また、説明できなかった二人の児童は、「江戸幕府の状況」と「忠敬の願い」を箇条書きで記述していた。このことから、「忠敬の願い」「仲間の存在」という流れは概ね作られたものの、「江戸幕府の状況」は、関連付けが弱かったと考える。現在及び江戸時代に使われた地図を比較する場面や伊能忠敬の思考を追体験する場面で、「江戸幕府の状況」の取り上げ方を工夫し、「江戸幕府の状況」と「忠敬の願い」を結び付けることが必要であった。

【図11】は、「関連を考える力」について、目的実現の理由を関連付けて考える力の育成状況をまとめたものである。杉田玄白が「解体新書」完成を実現させることができた理由として、「地道な努力の積み重ね」、「あきらめない粘り強さ」、「仲間の支え」の三点を設定した。そして育成状況の判断基準として、三点を関連付けて説明している児童をA、二点を関連付けて説明している児童をBとした。また、伊能忠敬が正確な日本地図の完成



【図11】「関連を考える力」の育成状況 (事後テスト:記述) 児童をA、二点を関連付けて説明している児童をBとした。また、伊能忠敬が正確な日本地図の完成

を実現させることができた理由として、「地道な努力の積み重ね」、「あきらめない粘り強さ」、「多くの人々の協力」の三点を設定した。そして育成状況の判断基準として、三点を関連付けて説明している児童をA、二点を関連付けて説明している児童をBとした。

結果を見ると、杉田玄白の解体新書、伊能忠敬の日本地図ともに、95%以上の児童が目的実現の理由を関連付けて説明できたことが分かる。人物との思考の隔たりを小さくさせる活動において、杉田玄白や伊能忠敬の具体的な苦労や工夫の一部を実際に追体験させた。また、周りで支えた人々について、杉田玄白や伊能忠敬とのかかわりを取り上げ、その存在の意味を考えさせた。これらにより、人物の願いと結果との間にある目的実現の過程に目を向け、その意味をとらえることができたと考える。人物の思考や行為を追体験する活動は、人物との思考の隔たりを小さくさせることによって目的実現の理由を関連付けて考える力を育成するために有効であった。また、人物の働きを、「人物の願い 目的実現の過程 結果」という枠でとらえるためにも有効であった。

関連を説明できなかった児童は、「『フルヘッド』を『堆く』と訳したから」という追体験の活動そのままの記述や、「がんばったから」という具体性に乏しい記述であった。追体験した内容が人物の働きの中でどのような意味を持っているのか、人物の願いや歴史的背景などと関連させ、授業の中で再確認する必要があった。

【資料9】は、「関連を考える力」にかかわるワークシートへの記述や授業中の発言、授業の感想について分類したものである。「楽しかった」という感想にとどまるのではなく、「だからこう考えたのか」など、人物の行為の理由と関連付けている内容が見られた。また、前時までにとらえた歴史的背景などの事実と追体験の場面を関連付けたり、人物の思いに寄り添って考えている感想も見られた。人物の思考や行為を追体験する場面を組み入れたことにより、人物との思考の隔たりを小さくさせることができたためと考える。

これらのことから、人物を身近に感じることでできる場面を組み入れた指導は、「関連を考える力」を育成するために、有効であったと考える。

#### 【資料9】「関連を考える力」にかかわるワークシートへの記述・授業中の発言・授業の感想

ワークシートへの記述（「腑分けの帰り道」・「翻訳決心の理由」）

- ・待ちに待った腑分けを見て、「ターヘル・アナトミア」の正しさが分かったぞ。翻訳すれば役に立つに違いない。大丈夫、私には同じ考えの仲間がいる。日本の医学を、仲間と一緒に発展させよう。（同内容16人）
- ・わたしが信じていた中国の医学書より「ターヘル・アナトミア」の方が正しかった。日本中の医者に知らせないと！（同内容13人）
- ・わしは医者として恥ずかしい。医者なのに、病気に苦しむ人々の命を助けてあげられなかった。わしは、仲間とともに体のしくみを勉強し、苦しんでいる人たちを苦しみから解放してあげたいのじゃ。（同内容12人）
- ・実際に見たけどすごかったな。自分たちだけの秘密にしていちゃダメじゃないかな。（同内容11人）

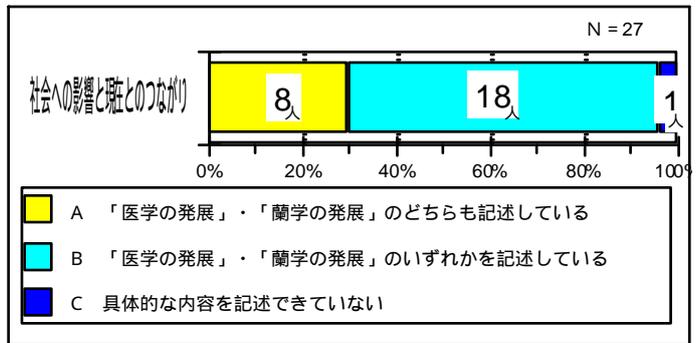
授業の感想

- ・「フルヘッド」の意味を考えるのが楽しかったです。分かっている言葉を集めて推理するのは、分かったときにすごく「すかっ」としたと思います。大変だけどやりがいがあったろうなと思いました。（同内容24人）
- ・玄白たちは、難しいことを最後まであきらめないでやったのがすごかったです。みんなで集まって、知恵を出し合ってがんばったのがえらいと思いました。（同内容21人）
- ・人体模型を使ったので、ちょっとだけ、腑分けの雰囲気がわかりました。今日は模型だったからおもしろかったけど、実際はすごく気持ち悪くて、私なら気分が悪くなったと思います。玄白だって初めて体の中を見たのに、その日のうちに「翻訳しよう」と決めたのは、それだけショックが大きかったのと、病気の人たちを助けたいという気持ちが強かったからだと思います。（同内容20人）
- ・杉田玄白みたいに、手本をそのまま信じるのではなく、「本当かな？」と考えて、実際に確かめることが大切だと思います。（同内容10人）

#### ウ 価値を見つける力の育成状況

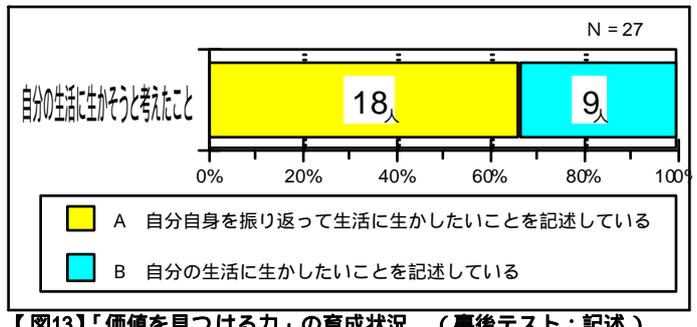
24頁【図12】は、「価値を見つける力」について、人物の働きが与えた社会への影響と、現在と

のつながりを考える力の育成状況をまとめたものである。判断基準として「解体新書出版」による「医学の発展」、「蘭学の発展」と現在とのつながりについて、どちらも記述できた児童をA、いずれか一つを記述できた児童をB、具体的な内容を記述できなかった児童をCとした。



結果を見ると、Aの児童が29.6% (27人中8人)、Bの児童が66.7% (27人中18人)、Cの児童が3.7% (27人中1人)と、95%以上の児童が社会への影響と現在とのつながりを説明できたことが分かる。空間の隔たりを小さくさせる場面では建部清庵と杉田玄白の交流を取り上げ、「解体新書」出版が全国の医者に衝撃を与え、その後の医学発展につながったことを押さえた。また、杉田玄白の後を継いだ大槻玄沢が育てた人材は、医学だけでなく、教育や政治など現在につながるさまざまな分野で活躍し、蘭学を発展させたことを押さえた。これらに加え、「時間の隔たりを小さくさせる」場面での経験が、「解体新書」出版による当時への影響と現在とのつながりを考えることにつながったと考える。一方、Cと判断した児童は、人物のつながりをとらえるにとどまり、社会への影響と現在とのつながりを記述するには至らなかった。人物の働きに立ち返り、社会への影響と現在とのつながりを意識させることが必要であった。

【図13】は、「価値を見つける力」について、人物の働きについて学習したことを通して、自分の生活に生かそうと考える力の育成状況をまとめたものである。判断基準として、杉田玄白と伊能忠敬の働きについて学習した中で、自分自身を振り返ってこれからの生活に生かそうと考えたことを記述している児童をA、これからの生活に生かそうと考えたことを記述している児童をBとした。



結果を見ると、Aの児童が66.6% (27人中18人)、Bの児童が33.4% (27人中9人)であり、全児童が、人物の考え方や行為からこれからの自分の生活に生かしていきたいことを考えることができたことが分かる。これは、歴史上の人物との隔たりを小さくさせる場面を組み入れたことにより、杉田玄白や伊能忠敬の苦労や努力の一部を共有できたという意識を持たせたことができたためと、人物の立場に立って考えたことにより、自分の考えと比較したり自分の生活を振り返ったりすることができたためであると考えられる。

【資料10】は事後テストでの具体的な記述、25頁【資料11】は、「価値を見つける力」にかかわるワークシートへの記述や発言などを分類したものである。自分を振り返って人物の働きの価値を考えたり、人物から学んだことを自分の生活に反映させようと考えたりしている児童が見られる。

【資料10】自分の生活に生かしていきたいと思うことの記述

- ・私は、大変なことがあったり、いやだなと思うことがあると、やらなくてはいけないのに後回しにしてしまうことがあります。杉田玄白さんのように最後まであきらめない強さが欲しいです。(同内容16人)
- ・疑問を自分の目で確かめて、しかもその正しさをみんなに広めようとしたことがすごいいい大切だと思いました。(同内容11人)
- ・難しいことから逃げないこととか、毎日少しずつ努力することとか、仲間を大切にすることとか、たくさんのことを教えてもらいました。私も杉田玄白や伊能忠敬のように、絶対にあきらめない人間になりたいです。(同内容10人)
- ・もし今まで自分が思っていたことと違うことが出てきても、きちんと自分の目で確かめようと思います。(同内容10人)
- ・やる前にいろいろ悩まないで、何事にもチャレンジしていく気持ちが大切だと思った。(同内容7人)
- ・まわりの人に何といわれても、正しいことは正しいと勇気を持って言い続けることを自分も見習おうと思った。(同内容6人)

【資料11】「価値を見つける力」にかかわるワークシートへの記述・授業中の発言・授業の感想

- ・わしが作った「解体新書」は、どれくらい役に立ったのかのう。病気で苦しむ人が少なくなっていたらうれしいのう。君たちの時代にも、わしや良沢の作った「解体新書」が役に立っていたらうれしいのう。(同内容14人)
- ・いいか、卒業までに自分たちで決めためあてを、「あきらめず」に達成させるんじゃ。もし「苦手だなあ」と思う人がおっても、自分からどんどん話しかけていくんじゃぞ。仲間は大切じゃからのう。(同内容12人)
- ・岩手の人が玄白を勇気づけたり、杉田玄白の弟子になって蘭学を發展させたと知ってうれしかった。(同内容24人)
- ・「解体新書」の後、蘭学が一気に盛んになったのが分かりました。建部清庵のように杉田玄白と同じ考えの人が全国にいて、蘭学を研究したからだと思います。(同内容13人)
- ・杉田玄白と建部清庵は、お互い顔も知らないのに手紙のやりとりをしていたことを驚きました。一度も会っていないのに、同じ疑問を持っていたことに驚きました。(同内容7人)
- ・幕府に罰せられるかもしれないのに、勇気を持って真実を追い求め、みんなに伝えようとするあなたの考え方は、僕たちにもあてはまる大切な考え方です。最後まであきらめずに翻訳したことも、見習いたいことだと思います。(同内容6人)

これらのことから、人物を身近に感じることでできる場面を組み入れた指導は、「価値を見つける力」を育成するために、有効であったと考える。

エ 社会の学習に関する意識調査の結果 【表13】社会の学習に関する意識調査の結果 N = 27

【表13】は、社会の学習に対する意識の状況について、事前と事後の結果をまとめたものである。<sup>2</sup>検定の結果、七つの設問すべてに有意差が認められ、社会の学習に対する意識が高まったことが推察される。26頁【表14】は、各設問の内容にかかわるワークシートの記述や授業中の発言をまとめたものである。

設問は、人物の行為の理由についての意識調査である。【表14】の記述から、杉田玄白の立場から「解体新書」作成を決心した理由を考えたり、願いに基づいて杉田玄白の行為を理由付けたりするなど、人物の行為の理由に着目できた児童がいることが分かる。これは、「解体新書」作成のきっかけとなった「腑分け」を擬似的に追体験する場面を設定したことで、人物との思考の隔たりが小さくなったためと思われる。

設問は、人物の活躍した当時の社会の様子についての意識調査である。【表14】の記述から、人物の置かれた状況や、その状況に至った歴史的背景など、当時の社会の様子に着目できた児童がいることが分かる。これは、現在と当時、そして解体新書の人体図を比較して共通点や相違点、疑問点を考えたことにより、人物との時間の隔たりが小さくなったためと考える。

設問は、人物を支えた人々の存在についての意識調査である。【表14】の記述から、解体新書作成の決心を後押しした前野良沢や書簡の往来があった建部清庵など、杉田玄白を支えた人々に着目できた児童がいることが分かる。また有意差が二桁となっており、7問中最大値となっている。

設問番号及び内容	事後		+	-	合計	<sup>2</sup> 検定
	事前					
歴史上の人物が行ったことについて勉強する時、その理由を考えることがありますか	+	20	0	20	* 4.17	
	-	6	1	7		
	合計	26	1	27		
歴史上の人物が行ったことについて勉強する時、当時の社会の様子を思い浮かべながら考えることがありますか	+	21	0	21	* 4.17	
	-	6	0	6		
	合計	27	0	27		
歴史上の人物が行ったことについて勉強する時、まわりで支えた人々のことを考えることがありますか	+	15	0	15	* 11.00	
	-	11	1	12		
	合計	26	1	27		
歴史上の人物が行ったことについて勉強する時、結果につながった努力や工夫について考えることがありますか	+	18	0	18	* 6.13	
	-	8	1	9		
	合計	26	1	27		
歴史上の人物が行ったことが、当時の社会でどのような役割を果たしたかを考えることがありますか	+	16	0	16	* 7.11	
	-	9	2	11		
	合計	25	2	27		
歴史上の人物が行ったことと、自分の生活とのつながりについて考えることがありますか	+	17	0	0	* 10.00	
	-	10	0	0		
	合計	27	0	0		
歴史上の人物の考え方や行動から、「これは生きていくために大切なことだな。」と考えることがありますか	+	20	0	0	* 5.14	
	-	7	0	7		
	合計	27	0	27		

(注) 1 事前調査は8月31日(金)、事後調査は9月18日(火)に実施した。  
 2 調査は「ある」、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」、「ない」の4肢選択で行い、「ある」「どちらかといえばある」は+反応、「どちらかといえばない」、「ない」は-反応とし、「ある」、「ない」はそれぞれ強い反応とした。  
 3 <sup>2</sup>検定で用いた公式は下記に示すとおりである。なお、bは-反応から+反応へ、cは+反応から-反応へ変わった人数を表している。  

$$^2 = \frac{(b - c)^2}{b + c}$$
 ただし、 $b + c < 10$ のときは  $^2 = \frac{(|b - c| - 1)^2}{b + c}$   
 4 有意水準5%で有意差がある場合は、\*印を付す。

これは、葛藤や努力など、思考や行為を追体験する場面をとおして人物との思考の隔たりが小さくなったためと、郷土の資料や先人を知る場面をとおして、人物をめぐる人々のつながりが、より具体的にイメージできるようになったためと考える。

設問 は、願いの実現につながった人物の努力や工夫についての意識調査である。【表14】

の記述から、「解体新書」完成の過程にあった翻訳の苦労や、「日本地図」完成の過程にあった測定の努力など、結果だけでなく、結果につながる努力や工夫に着目できた児童がいることが分かる。これは、人物の願いを常に意識させて行為や思考の追体験を行ったことにより、児童たちの思考過程に、「(時代背景をふまえた)人物の願い」「(願い実現に向けた)努力や工夫」「結果(実現の喜び)」という流れができたためと考える。

設問 は、人物の働きが当時の社会に与えた影響についての意識調査である。【表14】 の記述から、「解体新書」出版後の蘭学の広がりや伊能忠敬の地図の行き先など、人物の働きが果たした当時の社会での役割に着目できた児童がいることがわかる。これは、人物の働きの前後にかかわる資料を視覚に訴えるグラフ形式で提示したり、人物の願いを繰り返し確認したりすることにより、人物の働きが社会にどのような影響を与えたのか考えることができたためと考える。

設問 は、人物の働きと自分の生活とのかかわりについての意識調査である。【表14】 の記述から、自分の持つ知識と「解体新書」の図が近いことへの感想や、陸前高田市と伊能忠敬のつながりなど、自分の生活と歴史上の人物との具体的なつながりを考えることができた児童がいることが分かる。これは、児童にとって身近なものや自分の生活する地域の資料や郷土の先人を取り上げたことにより、人物との時間や空間の隔たりが小さくなったためと考える。

設問 は、人物の思考や行為から生きていくために大切なことを考えることについての意識調査である。【表14】 の記述から、苦境に立たされた時の人物の思考や行為を学ぶ中で、自分の生活を振り返って足りない点や見習いたい点を考えることができた児童がいることが分かる。これは、人物との隔たりを小さくさせる活動を積み重ねたことにより、一人の人間としてよりよい社会を作っていこ

【表14】 意識調査に関わるワークシート等への記述例・授業中の発言例

ワークシート等への記述・授業中の発言	
設問 人物の行為の理由	・人体模型を使って腑分けの様子を再現したことが楽しかったです。少し杉田玄白になったような気分です。解体新書を作ったわけを考えることができませんでした。----- ・腑分けを見たい見たいと思っていた玄白だから、その結果を早くみんなに知らせたいと思ったんだと思います。
設問 当時の社会の様子	・僕たちが知っていることが、杉田玄白の時代には全然知られていなかったのびびっくりしました。このころに、病気がけがをした人を治療するのは大変だっただろうと思いました。----- ・最初は、どうして医者なのに人の体の中を知らないのかと思ったのだけど、この時代は鎖国をしていて、正しいことがなかなか日本に入ってきたからかなと思いました。
設問 まわりで支えた人々	・杉田玄白が「解体新書」を作ろうと決心したのは、「本当のことを知りたい」という同じ考えを持っていた前野良沢たちがいたからだと思う。----- ・私は、杉田玄白もすごいと思ったけど、前野良沢や建部清庵もすごいと思いました。この人たちの協力があってから、玄白は歴史に名前が残ったんだと思いました。
設問 結果につながった努力や工夫	・実際にオランダ語を翻訳してみて、玄白たちの苦労が分かりました。こんな大変なことを3年以上もかけて、最後まであきらめないでやれたのは、それだけ日本の医学をよくしたいという気持ちがあったからだと思いました。----- ・17年間、車やパソコンとかを使わず徒歩でこつこつ測量して、しかも高田にも来てくれたのがすごいです。少しずれてもそのままにしておく大変だから、何度も繰り返し測量したんだと思いました。
設問 当時の社会での役割	・「解体新書」の後、蘭学の本がたくさん発表されたのは、玄白たちのがんばりや正しさが、みんなに届いたからだと思いました。----- ・見せてもらった地図は、北海道がすごい形でした。忠敬が測量した地図が外国に伝わったのは、それだけ正確だったからだだと思います。
設問 自分の生活とのつながり	・杉田玄白たちが「ターヘル・アナトミア」を翻訳してくれなかったら、今の私たちは、病気の時、すごく困っていたと思います。----- ・忠敬の地図には、昔の気仙地方の地名が入っていて、本当に高田を測量したのだと分かった。忠敬の手伝いをした人の子孫が高田にいることがとても誇らしい。
設問 生きていく上で大切な事	・測量できなかった時の忠敬さんの気持ちを考える時、何か失敗した時の自分と比べました。私は失敗するとすぐ言い訳を考えるけど、忠敬さんは正直に「未測量」と書いていて言い訳をしませんでした。一生懸命やったけどできないことは恥ずかしいことじゃないと思いました。

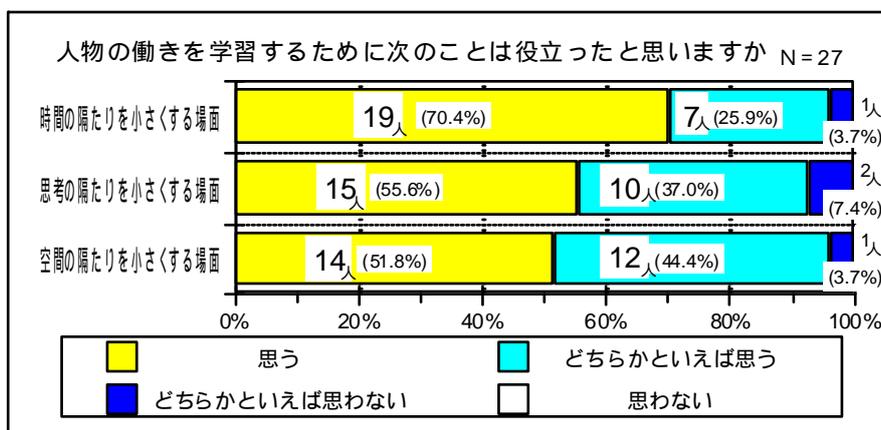
うとした人物の考え方や行為に共感的な思いを持つことができたためと考える。

一方、事前事後ともにマイナス反応だった児童は2人であった。そのうち1人の児童は設問「  
、  
、  
」で事前事後ともにマイナス反応であった。マイナス反応の中で見ると、設問「  
」は「ない」から「どちらかといえはない」へと意識が変化していた。テスト結果は学級の中位で、ワークシート等には学習活動や歴史上の人物に対する前向きな記述が多い児童であるが、自己評価が厳しい傾向があり、そのことが調査の結果にも反映されているものとする。もう1人の児童は設問「  
」で事前事後ともにマイナス反応であった。この児童は、設問「  
、  
」で「どちらかといえはない」から「どちらかといえはある」へとプラスに変化している。そのため全体としては社会の学習に対して意識が高まっていると言えるものの、本単元の学習の中で、人物の働きが果たした役割を明確に意識するまでには至らなかったものとする。

### オ 手だてに関する意識の状況

【表9】の調査計画にしたがって、人物を身近に感じることでできる場面に関する意識について調査した。【図14】、【図15】、28頁【図16】はその結果をまとめたもの、28頁【資料12】は人物を身近に感じることでできる場面に関する感想を分類したものである。

【図14】から、現在と歴史上の人物が生きた時代とを比べることにより時間の隔たりを小さくさせる場面、歴史上の人物の思考や行為を追体験することにより思考の隔たりを小さくさせる場面、歴史上の人物とかかわりのある身近な地域や郷土の先人を学ぶこ

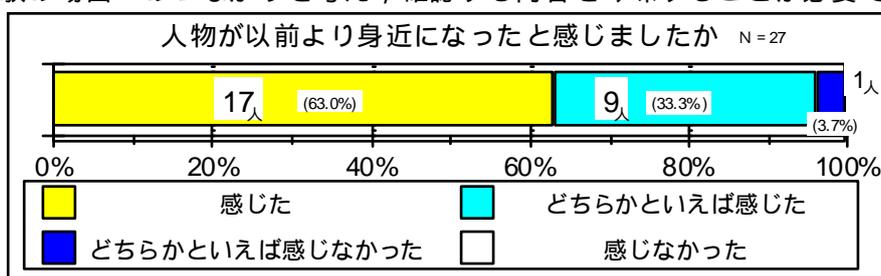


【図14】 人物との隔たりを小さくさせる場面に関する意識

とにより空間の隔たりを小さくさせる場面について、90%以上の児童が、「人物の働きを学習するために役立った」と肯定的な考えを持っていることが分かる。これは、人物との隔たりを小さくさせる場面の設定により、業績そのものだけでなく、歴史的背景や人物の働きの過程なども理解することができたためと考える。

一方、思考の隔たりを小さくさせる場面は、「どちらかという役立ったと思わない」と答えた児童が時間や空間の隔たりを小さくさせる場面よりも多かった。思考の隔たりを小さくさせる場面では、追体験の前に、歴史的背景や人物の願いなど活動の前提となる要素の確認が多くなる。児童の中には、追体験そのものに興味が向き、前提となる要素の確認作業に煩雑さを感じているような表情をする児童もいた。追体験の場面へのつながりを考え、確認する内容を吟味することが必要であった。

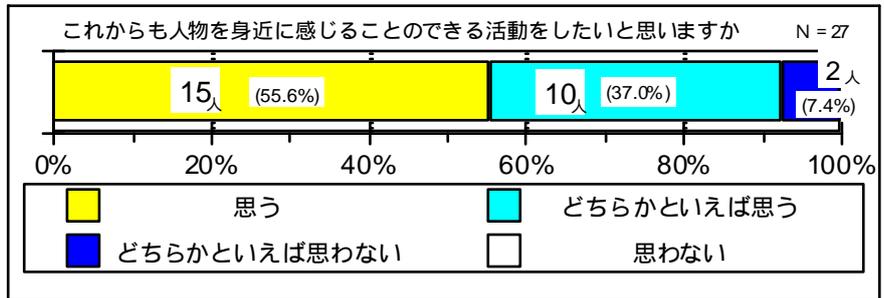
【図15】は、人物との隔たりを小さくさせる活動を組み入れたことによる、人物への意識の変化をまとめたものである。「身近に感じた」児童が63.0% (27人中17



【図15】 人物を身近に感じる意識

人),「どちらかといえば身近に感じた」児童が33.3%(27人中9人)であり,合わせて96.3%の児童が,人物が以前より身近になったと感じていることが分かる。学習終了後の感想では,歴史の本や教科書に出てくるような人物が,自分の住む地域とかかわりがあったことに喜びを感じたり,思考や行為の一部を追体験したことで,その人物の気持ちを考えやすかったと感じたりしている児童が多く見られた。

また,【図16】は,「人物を身近に感じることのできる場面」に対する児童の意識をまとめたものである。「人物を身近に感じることのできる活動」を,「これからもしたいと思う」児童が55.6%,「どちらかといえば思いう」児童が37.0%であり,合わせて92.6%の児童が,これから人物を身近に感じることのできる



【図16】 人物を身近に感じることのできる場面への意識

【資料12】 人物を身近に感じることのできる場面に関する感想

- ・今と昔の体の中の絵や地図を比べて,同じことなのに,全然ちがう考え方をしていたことが分かった。(17人)
- ・「解体新書」の図は,今なら当たり前だけど,杉田玄白の時代には「なんじゃ,これは?」と思われたと思った。(9人)
- ・人体模型で腑分けのようなことをした時,実際にはもっとにおいとかがあったんだろうなあと想像しておもしろかった。(15人)
- ・オランダ語を日本語に直してみても,杉田玄白も同じようにいろいろ考えたんだろうなあと感じて楽しかった。(18人)
- ・伊能忠敬が高田を本当に測量していたことが分かってよかった。その時代にいたら,お手伝いしていたと思う。(16人)

活動を行いたいと考えていることがわかる。【資料12】の記述からは,人物を身近に感じることのできる場面について,肯定的な考えが多く見受けられる。これは,人物の思考や行為の一部の追体験することによって,人物への共感的な思いを持ちながら学習することができたこと,自分の生活や生活している地域とのかかわりを知ることによって,人物の働きについての具体的なイメージが形成され学習意欲が高まったことが原因と思われる。

これらのことから,人物を身近に感じることのできる場面を取り入れた指導は,児童に概ね好意的に受け止められたものと考えられる。

5 小学校歴史学習における人物の働きについて理解する力を育成する指導に関する研究のまとめ

これまで,人物を身近に感じることのできる場面を組み入れた手だての試案に基づく授業実践を行い,実践結果の分析と考察をとおして仮説の有効性を考えてきた。それらの結果から,「成果」と「課題」を以下に示す。

(1) 成果

- ア 現在と人物の働きの前後の資料を比較させ,共通点や相違点について考えさせたことにより,自分の生活とのかかわりに気付かせ,当時の歴史的背景や人物の働きについての基本的な事実をとらえさせることができた。
- イ 人物の葛藤や行為のきっかけとなった場面や,努力や工夫の一部を追体験させたことにより,歴史的背景を基にして人物の状況を想像させ,人物の行為の理由や目的が実現した理由について関連付けて考えさせることができた。
- ウ 歴史上の人物とかかかりのある地域の資料や郷土の先人について調べさせたことにより,人物の働きと自分の地域とのかかわりに気付かせ,社会の変化や社会への影響を説明させることができた。また,事実を押さえ,その関連を考えさせる中で,知識の獲得だけでなく,

よりよく生活していくために大切な考えを意識させることができた。

エ 人物との間に存在する隔たりを「時間の隔たり」、「思考の隔たり」、「空間の隔たり」の三つに分類し、互いにかかわらせながら段階的に小さくさせたことにより、歴史上の人物に対して持っていた心理的な隔たりを小さくさせることができた。児童は、心理的な隔たりが小さくなったことから、歴史上の人物を身近に感じながら意欲的に学習に取り組み、自分とのかかわりについて考えたり人物の状況を想像したりすることができた。これらのことから、人物の働きを理解する力を育成することができたと考える。

## (2) 課題

ア 「人物を身近に感じることのできる場面」は、人物の働きを理解する力を育成することができるが、単元に新しい活動を設定することになるので、これまで以上に指導内容や時間配分を吟味し、単元の学習計画の中に「人物を身近に感じることのできる場面」の活動時間を保障することが必要である。

イ 「人物を身近に感じることのできる場面」は、場面そのものに児童の興味や関心が向かいやすい傾向がある。その場面が、人物の働きの中でどのような意味を持つのかを明確にするために、場面とその前後の指導のつながりをさらに工夫する必要がある。

ウ 一単位時間の中で、複数の「人物を身近に感じることのできる場面」を意図的に設定することは、児童の理解を深めるために有効と考える。有効性を高めるためには、場面相互の関連や軽重を明確にすること、人物の思考の流れに沿った設定にすることが必要である。

エ すべての人物で、時間、思考、空間というすべての隔たりにかかわる場面を設定することは、内容的にも時間的にも難しい。指導のねらいや人物の働きに応じて、どの隔たりを、どの段階で小さくさせていくのかを吟味して指導を進めることが必要である。

以上のことから、課題はあるものの、小学校の歴史学習において、人物を身近に感じることのできる場面を位置付けた手だての試案は、人物との心理的な距離を小さくさせることによって、自分とのかかわりや人物の状況を考えることにつながることから、人物の働きを理解する力を育成する上で有効であると考えられる。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本研究は、小学校の歴史学習において、人物を身近に感じることのできる場面を工夫することをおして、人物の働きを理解する力を育成する指導について明らかにし、小学校社会科の指導の充実と向上に役立てようとするものであった。そのために、人物の働きを理解する力を育成する指導に関する基本構想を立案し、手だての試案に基づいた実践を行った。その結果、仮説の妥当性を確かめることができ、人物の働きについて理解する力を育成する指導についてまとめることができた。

なお、成果として次のことを得ることができた。

#### (1) 小学校歴史学習における人物の働きを理解する力を育成する指導に関する基本構想の立案

基本構想の立案において、歴史上の人物を「身近に感じることのできる場面」を設定し、単元をおして意図的に組み入れていく学習指導を構想した。その際、「身近に感じる」ための視点を、思考の隔たりを小さくさせる、時間の隔たりを小さくさせる、空間の隔たりを小さくさせる、の三点にまとめ、人物の働きを理解する力を育成する学習指導の流れを整理す

ることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

「人物を身近に感じることでできる場面」を組み入れるに当たって、児童の実態を把握するために、人物や時代から感じた印象や歴史と自分の生活とのかかわりの意識について実態調査を行った。その結果、「人物の業績達成にかかわる事実が印象に残る一方で、業績達成のための思考や行為、社会への影響や価値はさほど印象に残っていない」ことや「8割の児童が歴史と自分の生活とのかかわりをほとんど感じていない」ことが明らかになった。また、明らかになった内容を基に、手だての試案作成上の配慮事項をまとめることができた。

(3) 基本構想に基づく手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった人物を身近に感じることでできる場面の工夫を組み入れる際の配慮事項を基にして、小学校の歴史学習における人物の働きを理解する力を育成するための手だての試案を作成することができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

検証計画に基づいた実践結果の分析と考察により、「人物を身近に感じることでできる場面」を組み入れることが、児童が歴史上の人物に対して持っていた「時間の隔たり」、「思考の隔たり」、「空間の隔たり」を小さくさせ、人物の働きを理解する力を育成する上で有効であることが確かめられた。

(5) 小学校歴史学習における人物の働きを理解する力を育成する指導に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察に基づき、児童の人物の働きを理解する力を育成する学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

## 2 今後の課題

今後は、「人物を身近に感じることでできる場面」を組み入れる目的や意図について計画段階で更に明確にし、単元の学習内容に応じた効果的な組み入れ方を明らかにしていきたい。

### <おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びの言葉といたします。

### 【引用文献】

溝上泰・片上宗二・北俊夫編(1995),『歴史学習の教材と指導のアイデア』, 明治図書, p.14

森分孝治・片上宗二編(2000),『社会科重要用語300の基礎知識』, 明治図書, p120

### 【参考文献】

小山田穰・渡辺八重子・小林賢司・小松沢昌人編(1994),『人物の生き方に学ぶ』, 東洋館出版社

北俊夫編(1991),『小学校社会科歴史人物42人指導法事典』, 明治図書

北俊夫編(1997),『調べ学習社会科の授業づくり 歴史上の人物を調べる授業』, 国土社

北俊夫編(1999),『歴史に対する理解と愛情を育てる小学校歴史学習の改革』, 明治図書

高野尚好・小林賢司・寺崎千秋編(2001),『新社会科の授業 こう教える6年』, 国土社

古川清行編(1980),『歴史学習の基本と実践』, 東京書籍

山口康助編(1975),『人物・物語を重視した歴史学習』, 明治図書

# 【補充資料】

## < 目次 >

<b>【補充資料 1】</b>	
社会科の学習についてのアンケート	資 1
<b>【補充資料 2】</b>	
事後テスト	資 3
<b>【補充資料 3】</b>	
事前意識調査	資 5
事後意識調査	資 7
<b>【補充資料 4】</b>	
「新しい学問の起こり」学習指導略案	資 9
<b>【補充資料 5】</b>	
授業で使ったワークシート	資 18
<b>【補充資料 6】</b>	
「蘭学事始」にかかわる資料	資 24

## 社会科の学習についてのアンケート

陸前高田市立高田小学校	名前	
-------------	----	--

このアンケートは、社会科での「歴史学習」について、みなさんがふだんどのように思っているのかを教えてください、これからの学習に役立てるために行うものです。テストではありませんので、自分の思っているとおりに、自由に答えてください。

- 1 一学期に勉強した中で、あなたの印象に残った「歴史上の人物」はだれでしたか。（ひとりでなくてもいいですよ。）



- 2 その人物の、どのようなところが印象に残りましたか。



- 3 一学期に勉強した中で、あなたの印象に残ったのは何時代でしたか。（ひとつの時代でなくてもいいですよ。）



4 その時代の、どのようなところが印象に残りましたか。



A large, empty rectangular box with a speech bubble tail pointing to the man, intended for the respondent's answer.

5 歴史を勉強していて、「これは、自分の生活とかかわりがある」と感じることはありますか。あてはまるものをひとつ選んで、その記号を で囲んでください。

ア よく感じる

イ ときどき感じる

ウ ほとんど感じない

エ まったく感じない



6 ア, イを選んだ人に質問します。どのような時に、「自分の生活とかかわりがある」と感じますか。



A large, empty oval-shaped box with a speech bubble tail pointing to the woman, intended for the respondent's answer.

ご協力，ありがとうございました。



江戸時代の学問について、答えましょう。

名前 ( )

(1) あ , い , う の人物は、それぞれなんという人物ですか？ ( ) に名前を書きましょう。

あ
伊能忠敬 肖像画
( )

い
大槻玄沢 肖像画
( )

う
杉田玄白 肖像画
( )

(2) 文章にあう人物を選んで、 に あ , い , う の記号を書きましょう。文章にあう人物がいなければ、 はあけておきましょう。

- ・ 日本古来の文化を見直す考え方を広め、「古事記伝」を完成させた。
- ・ オランダの医学書をほん訳し、「解体新書」を出版した。
- ・ 56歳から全国を測量し、17年かけて正確な日本地図を作った。
- ・ 一関出身の人物で、多くの弟子を育てるなど、蘭学の発展につくした。
- ・ 「東海道五十三次」などの浮世絵の作品を発表した


(3) あ , い , う の人物に関係のある資料を 2つずつ 選び、番号を書きましょう。

解体新書 表紙	検地の 様子	重訂解体新書 表紙	星の高度を 観測する 様子
岩手県 地図	日本 地図	東医宝鑑 , ターヘル・ アナトミア の人体図	歌舞伎を 楽しむ 人々

あ・・・( ) ( ) い・・・( ) ( ) う・・・( ) ( )

(1) 杉田玄白たちの時代は、西洋の医学を研究することは、大変勇気の必要なことであり、また、たいへん難しいことでした。それはどうしてだと思いますか？

西洋の医学を研究するために、勇気が必要だった理由

西洋の医学を研究することが、たいへん難しかった理由

(2) 杉田玄白が「ターヘル・アナトミア」をほん訳しようと決心したのはどうしてですか？

(3) 杉田玄白が「解体新書」を完成させることができた理由として、どんなことが考えられますか？

(4) 「解体新書」の出版は、日本の社会に、どんな<sup>えいきょう</sup>影響を与えましたか？

(5) 伊能忠敬が正確な日本地図を作ることができたのはどうしてですか？

(6) 杉田玄白や伊能忠敬の考えや行動から、自分がこれから生きていくために大切だと思うことは何ですか？

【補充資料3 - 】 事前意識調査

これはテストではありません。みなさんが、どんなことを考えながら歴史を勉強しているのかを知って、歴史の勉強に役立てるためのものです。ふだんの自分を振り返って、一番近いものを選んで で囲んでください。

1 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて、その理由を考えることがありますか

いつも考える	時々考える	あまり考えない	まったく考えない
--------	-------	---------	----------

2 あなたは、歴史上の人物が歴史の中でどのような役割を果たしたかを考えることがありますか

いつも考える	時々考える	あまり考えない	まったく考えない
--------	-------	---------	----------

3 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて、その理由や果たした役割を考えることは大切だと思いますか

とても大切だと思う	大切だと思う	あまり大切だとは思わない	大切だとは思わない
-----------	--------	--------------	-----------

4 あなたは、歴史上の人物の願いを考えたり努力や工夫を調べることを中心に学習することが好きですか

とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
-------	--------	-----------	--------

5 あなたは、歴史上の人物がどのような願いをもっていたのかを考えようとしていますか

いつも考えようとしている	時々考えようとしている	あまり考えようとしていない	まったく考えようとしていない
--------------	-------------	---------------	----------------

6 あなたは、歴史上の人物の願いと人物の行動を結びつけて考えようとしていますか

いつも考えようとしている	時々考えようとしている	あまり考えようとしていない	まったく考えようとしていない
--------------	-------------	---------------	----------------

7 あなたは、歴史上の人物がどのような願いをもち、どのような行動をとったのか調べていくと、歴史の勉強がわかりやすくなると思いますか

強く思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
------	--------	---------	----------

8 あなたは、現在使われているものと、歴史上の人物が生きた時代に使われていたものを比べることは、人物の働きを学習するために役立つと思いますか

強く思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
------	--------	---------	----------

9 あなたは、歴史上の人物が実際に考えたり努力したりした場面を追体験することは、人物の働きを学習するために役立つと思いますか

強く思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
------	--------	---------	----------

10 あなたは、歴史上の人物と身近な地域や郷土の先人について学習することは、人物の働きを学習するために役立つと思いますか

強く思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
------	--------	---------	----------

11 あなたは、歴史上の人物と自分の生活とのかかわりを考えたり、人物の考えや行動の追体験をしたりすると、歴史上の人物を身近に感じることができると思いますか

強く思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
------	--------	---------	----------

**【補充資料3 - 】 事後意識調査**

これはテストではありません。みなさんが、どんなことを考えながら歴史を勉強しているのかわかって、歴史の勉強に役立てるためのものです。ふだんの自分を振り返って、一番近いものを選んで で囲んでください。

1 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて考える時、その理由を考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

2 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて考える時、当時の社会の様子を思い浮かべながら考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

3 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて考える時、まわりで支えた人々のことを考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

4 あなたは、歴史上の人物が行ったことについて考える時、結果につながった努力や工夫について考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

5 あなたは、歴史上の人物が行ったことが、当時の社会でどのような役割を果たしたかを考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

6 あなたは、歴史上の人物が行ったことと、自分の生活とのつながりについて考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

7 あなたは、歴史上の人物の考え方や行動から、「これは大切なことだな。」と考えることがありますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

8 あなたは、現在使われているものと、歴史上の人物が生きた時代に使われていたものを比べたことは、人物の働きを学習するために役立ったと思いますか

思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
----	------------	--------------	------

9 あなたは、歴史上の人物が実際に考えたり努力したりした場面を追体験したことは、人物の働きを学習するために役立ったと思いますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

10 あなたは、歴史上の人物と身近な地域や郷土の先人について学習したことは、人物の働きを学習するために役立ったと思いますか

考える	どちらかといえば考える	どちらかといえば考えない	考えない
-----	-------------	--------------	------

11 あなたは、歴史上の人物と自分の生活とのかかわりを考えたり、歴史上の人物になったつもりで活動したりしたことで、前よりも歴史上の人物が身近になったと感じましたか

感じた	どちらかといえば感じた	どちらかといえば感じない	感じない
-----	-------------	--------------	------

12 あなたは、これからも歴史上の人物と自分の生活とのかかわりを考えたり、歴史上の人物になったつもりで活動したりしてみたいと思いますか

思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
----	------------	--------------	------

## 【補充資料4】 新しい学問の起こり学習指導略案

### 第6学年社会科学学習指導略案

期間 平成19年8月31日(金)～9月18日(火)

場所 陸前高田市立高田小学校

児童 第6学年 1学級 男14名 女13名 計27名

授業者 関戸 文則(長期研修生)

#### 1, 単元名 幕府の政治と人々の成長

- 新しい学問の起こり -

#### 2, 単元について

本単元では、江戸時代の後半に入り農業技術が進歩したことや、百姓一揆が起こったこと、町人文化が栄えたことや新しい学問が起こり広がっていったことなど、農民や町人が力を付け始め、社会が変わっていったことを学習していく。

江戸幕府は、参勤交代や鎖国政策、徹底した身分制度で、安定した支配体制を築いた。その結果、幕府の力は全国の隅々まで広がり、260年間にも及ぶ長い間日本を治め続けることができたのである。平安末期から、日本は戦乱が絶えず、庶民は常に不安定な生活を強いられてきた。江戸幕府の政治により、長い間平和な社会が続いたということは、庶民にとって力をつけていく絶好の機会であった。また、江戸中期から洋書の輸入がゆるめられ、医学や天文学が庶民にとって身近なものとなったことも、新たな学問が起こるきっかけの一つであった。

指導にあたり本単元では、網羅的な学習にならないよう、中心的な人物を取り上げて時代の特徴をつかませていく。新しい学問の起こりの学習では、杉田玄白が「解体新書」を著したことや伊能忠敬が日本地図を作製したことについて、人物との心理的な距離を小さくする場面をとおして追究させ、人物を身近に感じながら学習をすすめることができるようにしていきたい。そのため、学習過程に「人物の問題解決的思考や行為の一部を追体験する場面」や、「人物と自分の生活とのかかわりに気付く場面」を位置づけ、人物の働きをより深く理解できるようにさせていきたいと考える。

#### 3, 単元の目標

##### ア 関心・意欲・態度

- 江戸時代後期の世の中の様子や人物の働きに関心を持ち、その願いや行為を進んで調べよう และสามารถทำได้

##### イ 思考・判断

- 江戸時代後期に、農民や町人が力をつけていったことを、新しい学問が起こったことを中心に調べ、その理由や価値を考え、判断することができる

##### ウ 観察・資料活用・表現

- 江戸時代後期の農民・町人の暮らしの様子や変化について、資料や体験活動によって調べ、調べたことを表現することができる

##### エ 知識・理解

- 江戸時代後期の人々の様子や考え方を中心にして、農業が発展したこと、町人文化が栄えたこと、新しい学問が起こったことを理解することができる

4 学習指導計画（10時間）

職	学習内容	ねらい	主な評価規準	研究にかかわる手だて
1	変わりゆく村の暮らし	農村での生産力の増大と人々の団結の高まりをとおして、暮らしの変化や生活防衛の動きが起こったことを理解する	・江戸時代、農業生産力の大きな伸びに気付き、それに伴い、農民の暮らしや幕府との関係がどう変化していったのかを理解できる【知・理】	
2	花開く町人文化	江戸や大阪の繁栄の様子と文化の隆盛をとおし、町人が力を付け、産業や文化を発展させてきたことを理解する	・江戸や大阪の様子、浮世絵や歌舞伎などの文化の具体像から、民衆の生活について調べ、その力が高まっていったことを理解できる【知・理】	
3	蘭学と杉田玄白	杉田玄白にかかわる歴史的背景と基本的事実について理解し、杉田玄白に興味を持ってその思考や行為を考える	・杉田玄白に興味を持ち、学習課題を設定できる【関・意・態】 ・杉田玄白の働きの実と時代背景について理解できる【知・理】	人物の働きと自分の生活とのかかわりの気付き（時間の隔たりの縮小） ・現在、人物の働きの前後の人体解剖図比較年表の活用 エピソード
4	解体新書翻訳への道	「腑分け」にかかわる擬似的な追体験などとおして、杉田玄白が「解体新書」を作成しようとした理由について、歴史的背景と関連付けて考える	・「解体新書」作成の理由を時代背景と関連付けて説明できる【思・判】 ・解体新書の作成を決心するまでの杉田玄白の思いや時代背景を理解できる【知・理】	人物の問題解決的思考の追体験（思考の隔たりの縮小） ・腑分けの見学や葛藤場面の追体験による、切実感や共感的な思い エピソード
5	解体新書翻訳の苦労と努力	「解体新書」が完成するまでの苦労や努力を追体験して杉田玄白たちの思いや歴史的背景について理解し、解体新書の出版が当時の社会に与えた影響を考える	・杉田玄白の働きが当時の社会に与えた影響を説明できる【思・判】 ・解体新書完成のために、大変な苦労や努力があったことを理解できる【知・理】	人物の問題解決的行動の追体験（思考の隔たりの縮小） ・翻訳の工夫や努力の場面による、達成感や共感的な思い エピソード
6	杉田玄白と岩手県	杉田玄白とかかわりのある岩手の人物について調べ、杉田玄白の思いが全国へと広がっていったことを理解する	・杉田玄白の業績が、日本中に広がっていった理由を説明できる【思・判】 ・杉田玄白と岩手のつながりや、蘭学が日本全国へ広がっていったことを理解できる【知・理】	人物の働きと自分の地域とのかかわりの気付き（空間の隔たりの縮小） ・人物とゆかりのある郷土の先人との出会い 年表の活用 エピソード
7	よりよい社会の実現のために	杉田玄白の考え方や行動から、よりよく生活していくために大切だと感じたことを交流する	・杉田玄白の学習を基に、よりよい社会を作るための普遍的な価値を見つけることができる【思・判】	人物から現在へ、現在から人物へのメッセージ作成（思考の隔たりの縮小）
8	伊能忠敬と日本地図	伊能忠敬について関心を持ち、働きの基本的事実や業績達成のための工夫について調べ、その価値を考える	・伊能忠敬の働きについて当時の社会との関連や価値を説明できる【思・判】	人物の働きと自分の生活とのかかわりの気付き（時間の隔たりの縮小） ・地図の比較 人物の問題解決的思考の追体験（思考の隔たりの縮小） ・葛藤場面 エピソード
9	伊能忠敬と気仙地方	気仙地方における伊能忠敬の足跡について理解するとともに、伊能忠敬の学習をとおして大切だと感じたことを交流する	・気仙地方における伊能忠敬の足跡について、資料を調べながら具体的に理解できる ・伊能忠敬の考え方や行動から、普遍的な価値を見ることができる【思・判】	人物の働きと自分の生活とのかかわりの気付き（空間の隔たりの縮小） ・人物にゆかりのある郷土の史跡との出会い 人物からのメッセージ（思考の隔たりの縮小） 年表 エピソード
10	単元のまとめ	農民が力を付け、町人の文化が栄えたことや新しい学問が起こったことについてまとめる	単元で学んだことをポイントをしぼってまとめ、方法を自分で選択して表現できる【表・処】	

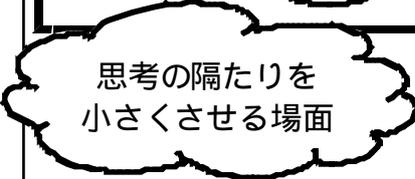
【新しい学問の起こり】展開案(1 / 7)

ねらい... 杉田玄白にかかわる歴史的背景と基本的事実について理解し, 杉田玄白に興味を持ってその思考や行為を考える

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
導入	<p>1 自分の体の中がどのようなつくりになっているか話し合う</p> <p>-----</p> <p>2 江戸中期まで使われていた人体図(東洋医学)と解体新書の人体図(西洋医学), 現在の人体図を比較する</p> <p>時間の隔たりを小さくさせる場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の内部について話し合わせて全員が知っていることを確認し, なぜ知っているか理由を発表させる</li> <li>医者は, なぜ体の中を見なくても患者を治療できるのか考えさせる</li> <li>三つの人体図の相違点や共通点をおさえ, 「いつから人間の体を科学的に知るようになったのだろう?」と, 興味を喚起する</li> <li>当時は東洋医学を, 解体新書は西洋医学を参考にしていただことをおさえる</li> <li>自分たちの生活が, 杉田玄白の働きとかかわりがあることに気づかせ, 人物への関心を高めさせる</li> <li>「いつ」「だれが」「なにを」「どうした」などの基本的事実を整理する</li> </ul>	<p>上半身の白図 現在の人体図</p> <p>東医宝鑑 解体新書 歴史年表</p> <p>杉田玄白肖像画</p> <p>杉田玄白年表</p>
展開	<p>3 三つの図から読み取ったことを基に疑問点を整理する</p> <p>4 学習問題を設定する</p> <p>杉田玄白と解体新書の秘密をさぐろう</p> <p>5 人物の思考や行為を類推する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オランダから買った?</li> <li>・実際に切り開いた?</li> <li>・誰かと協力した?</li> </ul> <p>思考の隔たりを小さくさせる場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎖国政策や言葉の壁, 当時の医学の状況など, 歴史的背景を整理する</li> <li>翻訳した理由, 方法, 影響などを中心に整理し, 学習問題につなげる</li> <li>歴史的背景を押さえた上で, 杉田玄白はどのようにして翻訳を進めていったのか, 思考や行為を予想させる</li> </ul>	<p>「ターヘル・アナトミア」表紙</p>
終末	<p>6 学習内容を振り返る</p> <p>7 次時の学習内容を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに学んだ内容を整理し, 発表する</li> <li>玄白が, 「ターヘル・アナトミア」を入手した時のエピソードを紹介する</li> <li>解体新書作成の理由について調べていくことを知らせる</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

【新しい学問の起こり】展開案（ 2 / 7 ）

ねらい...腑分けにかかわる擬似的な追体験をとおして，杉田玄白が「解体新書」を作成しようと決心した理由について，歴史的背景と関連付けて考える

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
導入	1 前時の学習を想起し，杉田玄白の業績と時代背景について確認する 2 学習問題を設定する 解体新書の作成を決心した，玄白の気持ちを考えよう	・業績と時代背景をそれぞれ確認した後，矛盾点を引き出し，学習問題につなげる	
展開	3 「腑分け」の資料を読み，オランダの医学書を翻訳することになった動機を調べる ----- 4 人体模型を使い，腑分け見学の追体験をする 立ち会った人たちの様子や気持ちを考える ----- 5 「腑分け」の帰り道，玄白たちが話し合ったことを資料から考え，吹き出しに書く 6 考えたことを交流し，解体新書の作成を決心した理由をまとめる 	・人物をより身近に感じることができるよう，玄白自身の言葉である「蘭学事始」を資料として活用する ・追体験に生かせるよう，腑分けに立ち会った人物の様子を押さえる ----- ・役割に応じたセリフを作り，簡単な動作化を組み入れることによって，「腑分け」の場面に臨場感を持たせる ----- ・腑分けの帰り道，杉田玄白らが並んでいる場面を提示し，ワークシートに会話を書き込ませる ・志を同じくする仲間が存在が，翻訳の決意につながったことを押さえる ・医学環境や言葉の壁など，大きな障害が葛藤を生んだことを確認する ・思考の流れが途切れないよう，追体験の場を続けて設定する ・多様な考えに触れられるよう，グループで交流をさせる	蘭学事始 「腑分け」の図 ----- 人体模型 「ターヘル・アナトミア」の人体図 ----- 「帰り道」の図 「帰り道」のワークシート
終末	7 学習内容を振り返る 8 次時の学習内容を知る	・玄白の良沢に対する思いが表れているエピソードを紹介する ・ワークシートに時代背景や翻訳を決心した理由を整理する ・翻訳の過程で，どんな苦労があったのかを調べていくことを知らせる	ワークシート

【新しい学問の起こり】展開案（3 / 7）

ねらい...「解体新書」が完成するまでの苦労や努力を追体験して杉田玄白たちの思いや時代背景について理解し、解体新書の出版が当時の社会に与えた影響を考える

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
導入	<p>1 前時の学習を想起し、翻訳を決意した玄白の気持ちを振り返る</p> <p>2 学習問題を設定する</p>	<p>・翻訳に向けた強い決意を確認した後、オランダ語の知識がほとんどなかったことをもとに、学習問題につなげる</p>	ターヘル・アナトミア表紙
展開	<p>3 「ターヘル・アナトミア」の翻訳を始めた杉田玄白たちの気持ちを考える</p> <p>4 「ターヘル・アナトミア」の翻訳体験をする 「フルヘッヘンド」の翻訳</p> <p>思考の隔たりを小さくさせる場面</p>	<p>・「蘭学事始」に記述された「誠に櫓舵なき船の大海に乗り出せしがごとく...」という玄白の言葉から、玄白たちの不安な気持ちを想像させる</p> <p>・翻訳体験を行い、玄白らと同じ経験をするという意識を持たせる</p> <p>・「蘭学事始」の記述をヒントに、「フルヘッヘンド」の翻訳に挑戦し、玄白たちの努力の一端にふれさせる</p> <p>・困難だからこそ、少しの進歩にも大きな喜びを感じたことを理解させたい</p> <p>・考えた内容をグループで検討させ、苦労や喜びを仲間と共有した玄白の思いに近づける工夫をする</p>	
開	<p>5 「解体新書」が、当時の社会にどのような影響を与えたのか考え、交流する</p>	<p>・医学の発展はもちろん、蘭学発展のきっかけとなったことや、明治という新しい時代へもつながっていったことに気付かせたい</p>	蘭書出版数のグラフ
終末	<p>6 学習内容を振り返る</p> <p>7 次時の学習内容を知る</p>	<p>・ワークシートで、働きの過程にあった苦労や社会に与えた影響をまとめる</p> <p>・翻訳の過程でさまざまな造語（軟骨、十二指腸など）が考えられたこと、翻訳終了後、出版するまでも多くの障害があったことを紹介する</p> <p>・当時、岩手で活躍していた人物について調べることを知らせる</p>	ワークシート

【新しい学問の起こり】展開案(4 / 7)

ねらい...杉田玄白とかかわりのある岩手の人物について調べ、杉田玄白の思いが全国へと広がっていったことを理解する

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
導入	<p>1 前時の学習を想起し、杉田玄白の働きが、当時の社会にどのような影響を与えたのかを確認する</p> <p>2 学習問題を設定する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>岩手にも蘭学は広がっていたのだろうか</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄白の働きについて確認した後、同じ時代の岩手の様子を予想させ、学習問題につなげる</li> </ul>	杉田玄白年表
展開	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>3 杉田玄白とかかわりのある人物が岩手にいたことを知る</p> <p>4 建部清庵と大槻玄沢について調べる</p> <p style="text-align: center;"><b>建部清庵</b></p> <p style="text-align: center;"><b>大槻玄沢</b></p> <p>5 蘭学の広がりを調べ、多くの蘭学者がその後の時代で活躍したことを知る</p> </div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>空間の隔たりを小さくさせる場面</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蘭学事始の記述を基に、杉田玄白がさまざまな人々と交流していたことを押さえる</li> <li>・江戸から遠く離れた岩手でも、蘭学を志した人物がいたことに気付かせる</li> <li>・清庵と玄白がお互いに影響を与えあったこと、地方にも解体新書の影響が広がったことを押さえる</li> <li>・玄沢は玄白の後を次いで、蘭学の第一人者となり、多くの門弟を育てたことを押さえる</li> <li>・医学だけでなく、現在にもつながるさまざまな分野で活躍した人物が多いこと、元をたどると杉田玄白につながることに気付かせる</li> <li>・明治維新でも活躍した人物がいることに気付かせ、蘭学が歴史の中で大きな役割を果たしたことを理解させる</li> </ul>	<p>蘭学事始</p> <p>日本地図</p> <p>岩手県地図</p> <p>建部清庵資料</p> <p>大槻玄沢資料</p> <p>人物関係図</p>
終末	<p>6 学習内容を振り返る</p> <p>7 次時の学習内容を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで、蘭学の広がりを見た玄白の思いをまとめる</li> <li>・玄白の後進育成に対する気持ちが現れた文章、「玄沢」という名前の由来を紹介する</li> <li>・よりよく生きていくために大切だと感じたことを交流することを知らせる</li> </ul>	ワークシート



【新しい学問の起こり】展開案(6 / 7)

ねらい...伊能忠敬について関心を持ち、働きの基本的事実や業績達成のための工夫について調べ、その価値を考える

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料
導入	<p>1 普段使っている地図について話し合う どうやって作っているか どんな時に使うか</p> <p>2 現在の地図や伊能図、それ以前の地図を比べ、伊能忠敬について知る</p> <p>3 学習問題を設定する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">伊能忠敬と日本地図についてさぐろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図が、児童の生活にとけ込んでいることを話し合いから引き出す</li> <li>・時代の違う四つの地図を比べ、忠敬の地図が現在の地図に近いことに目を向けさせる</li> <li>・パソコンを活用し、地図を提示する</li> </ul>	<p>日本地図</p> <p>四種類の地図 年表 伊能忠敬肖像画</p>
展開	<p>4 地図作成における忠敬の働きについて調べる 時代背景 どのようにして測量したか 作成の期間や歩いた距離</p> <p>5 測量できなかった場所を、忠敬はどのように処理したか考える</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">思考の隔たりを小さくさせる場面</p> <p>6 伊能図の正確さを知り、その価値を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンで測量の道具や期間などについての資料を提示し、クイズ形式で進めていく</li> <li>・随時、年表を活用し、忠敬の年齢を確認する</li> <li>・選択肢を四つ提示し、自分がその立場だったらどうするか考えさせる</li> <li>・測量できなかった場所は「未測量」と記録してあることから、忠敬の地図作成に対する思いの強さを感じさせる</li> <li>・パソコンを活用し、現在の地図と伊能図を重ね合わせ、正確さを確認する</li> <li>・明治時代の地図作成の参考にされたこと、芸術品としても高い価値があることをおさえる</li> </ul>	<p>測量のデータ 経路地図 道具の写真</p> <p>伊能忠敬年表</p> <p>測量の絵図</p> <p>地図資料</p>
終末	<p>7 学習内容を振り返る</p> <p>8 次時の学習内容を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートで、学習内容を整理する</li> <li>・50歳で江戸に出てくる時、19歳年下の高橋至時に師事した時のエピソードを紹介する</li> <li>・伊能忠敬と気仙地方のつながりについて学習することを知らせる</li> </ul>	<p>ワークシート</p>

【新しい学問の起こり】展開案（7 / 7）

ねらい... 気仙地方における伊能忠敬の足跡について理解するとともに、伊能忠敬の学習をとおして大切だと感じたことを交流する

段階	学習活動	指導上の留意点	主な資料		
導入	1 前時の学習を想起し，忠敬の工夫や努力について振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>忠敬の働きについて振り返り，気仙地方には忠敬の足跡が残っていないかと問いかけ，学習問題につなげる</li> </ul>	伊能忠敬肖像画  伊能図（東北）		
	2 学習問題を設定する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">伊能忠敬の足跡は陸前高田にどのように残っているのだろうか</div>				
展開	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     3 測量の資料を基に，伊能忠敬の足跡を調べる                       ・測量日記                      ・気仙地方古地図                 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">空間の隔たりを小さくさせる場面</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>測量日記から知っている地名を探させ，市の白地図に記入させ，海岸沿いに測量していったことを確認する</li> <li>図書館や博物館に問い合わせ，地元の資料を準備する</li> <li>気仙地方の古地図を観察させ，測量日記の記述と照合させる</li> </ul>	伊能忠敬測量日記 気仙地方古地図  ワークシート		
	4 伊能忠敬の日本地図が正確な理由を考える			<ul style="list-style-type: none"> <li>正確な地図が作製された理由を，学習内容をもとに具体的に考えさせる</li> </ul>	伊能忠敬資料
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     5 伊能忠敬についての学習をとおして，大切だと感じたことを交流する                 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">思考の隔たりを小さくする場面</div>			<ul style="list-style-type: none"> <li>働きの結果だけでなく，過程に目を向けさせる</li> <li>個人的な価値基準で考えるのではなく，時代背景をふまえて考えさせ，単なる賞賛や感謝の言葉にならないようにさせる</li> <li>感じ方は人それぞれであり，自分の考えを押しつけないように助言する</li> <li>グループ内でお互いに発表させ，友達から学ぶ機会とさせる</li> </ul>	ワークシート
終末	6 杉田玄白と伊能忠敬についての学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>測量中は方位磁針が狂わないように，竹製の刀を差していたことを紹介する</li> <li>二人の人物の学習をとおして感じたことを記述させ，単元のまとめをさせる</li> </ul>			

# 杉 田 玄 白 シ ー ト 名 前 ( )

あ な た は 杉 田 玄 白 で す 。 「 い つ 頃 の 人 」 か ， 「 ど こ で 活 躍 し た 人 か 」 ， 「 何 を し た 人 か 」 な ど が ， 現 代 の み な さ ん に わ か る よ う に ， 自 己 紹 介 を し て く だ さ い 。

杉田玄白  
肖像画

今日 の 勉 強 を 振 り 返 っ て



# 杉 田 玄 白 シ ー ト 名 前 ( )

あ な た は 杉 田 玄 白 で す 。 「 解 体 新 書 」 を 作 成 し よ う と 決 心 し た 理 由 を ， 当 時 の 様 子 な ど を 考 え な が ら ， 説 明 し て く だ さ い 。

杉田玄白  
肖像画

今日 の 勉 強 を 振 り 返 っ て



# 杉田玄白シート 名前 ( )

杉田玄白たちは、どのような思いで「腑分け」を見学したのでしょうか？

腑分けを  
見学している図

今日の勉強を振り返って



# 杉田玄白シート 名前 ( )

杉田玄白たちは、「腑分け」見学の帰り道、どのような会話をかわしたと思いますか？

腑分け見学の帰り道  
並んで歩く  
杉田玄白や前野良沢

今日の勉強を振り返って



# 杉田玄白シート 名前 ( )

な  
杉田玄白たちになったつもりで、「ターヘル・アナトミア」のほん訳にチャレンジ！！

「ターヘル・アナトミア」を読み進めて行く中で、次のような文章にぶつかりました。

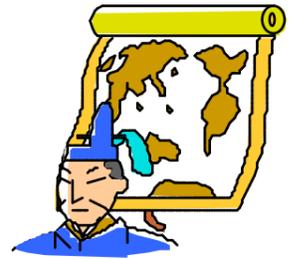
鼻とは、  
「フルヘッヘンド」  
しているものである。

さあ、どういう意味だろう？

ヒント

ヒント

今日の勉強を振り返って



# 杉田玄白シート 名前 ( )

あなたは杉田玄白です。蘭学が盛んになっていく様子を見て、どんなことを思うでしょう？

杉田玄白  
肖像画

今日の勉強を振り返って



# 杉田玄白シート

# 名前（

）

杉田玄白が活躍していた時代，みんなの住んでいる岩手県では，蘭学はどのように知られていたのでしょうか？資料を読んで調べてみましょう。

建部清庵	出身
肖像画	職業

大槻玄沢	出身
肖像画	職業

活動・杉田玄白たちとの関係

活動・杉田玄白たちとの関係

今日の勉強を振り返って

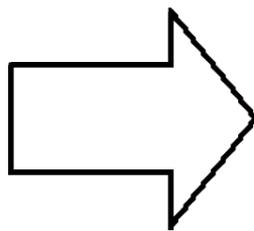


# メッセージシート

# 名前（

）

あなたは杉田玄白です。タイムマシンに乗って，江戸時代から平成19年にやってきました。高田小学校6年3組のみなさんに，どんなことを大切に生きてほしいですか？



【杉田玄白から】

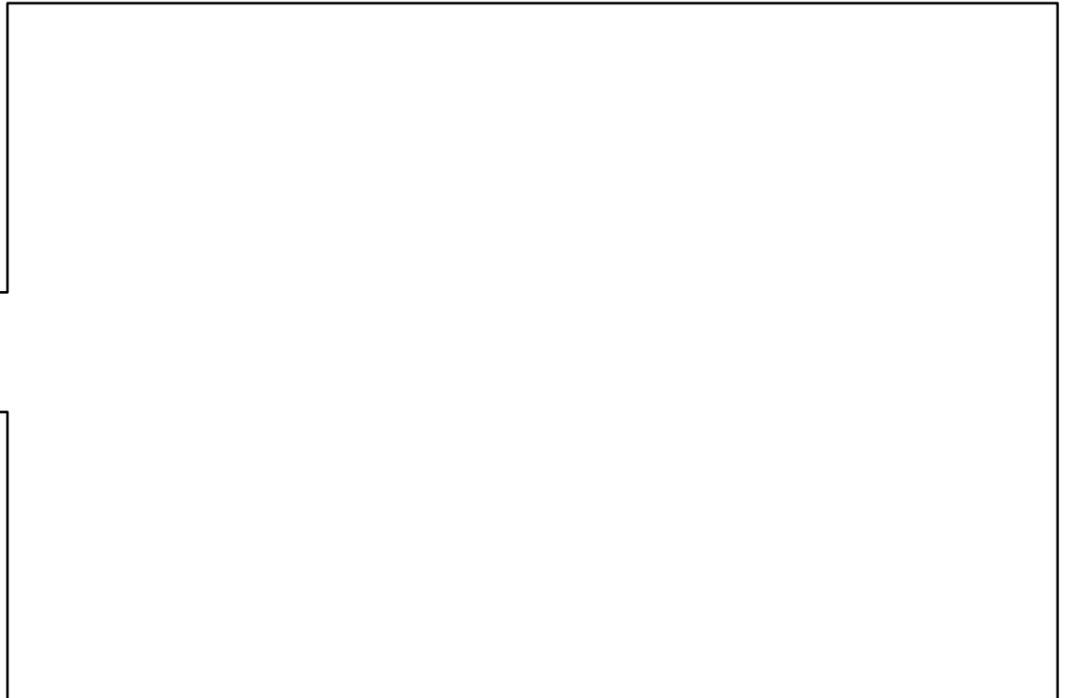
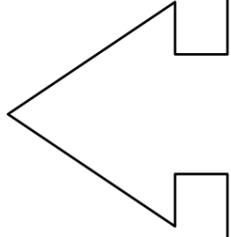
【未来のみなさんへ】

今日の勉強を振り返って



# メッセージシート 名前（ ）

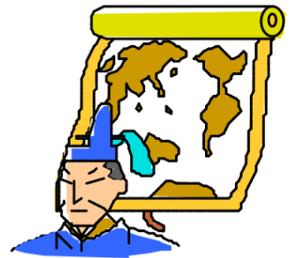
杉田玄白さんの働きからあなたはどんなことを学びましたか？タイムマシンに乗って江戸時代へ行き、玄白さんへのメッセージを考えてみましょう。



【杉田玄白さんへ】

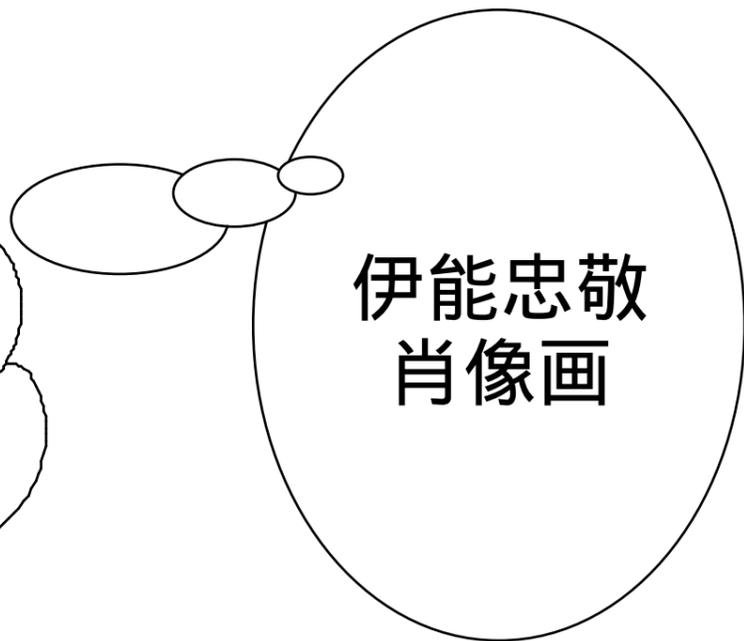
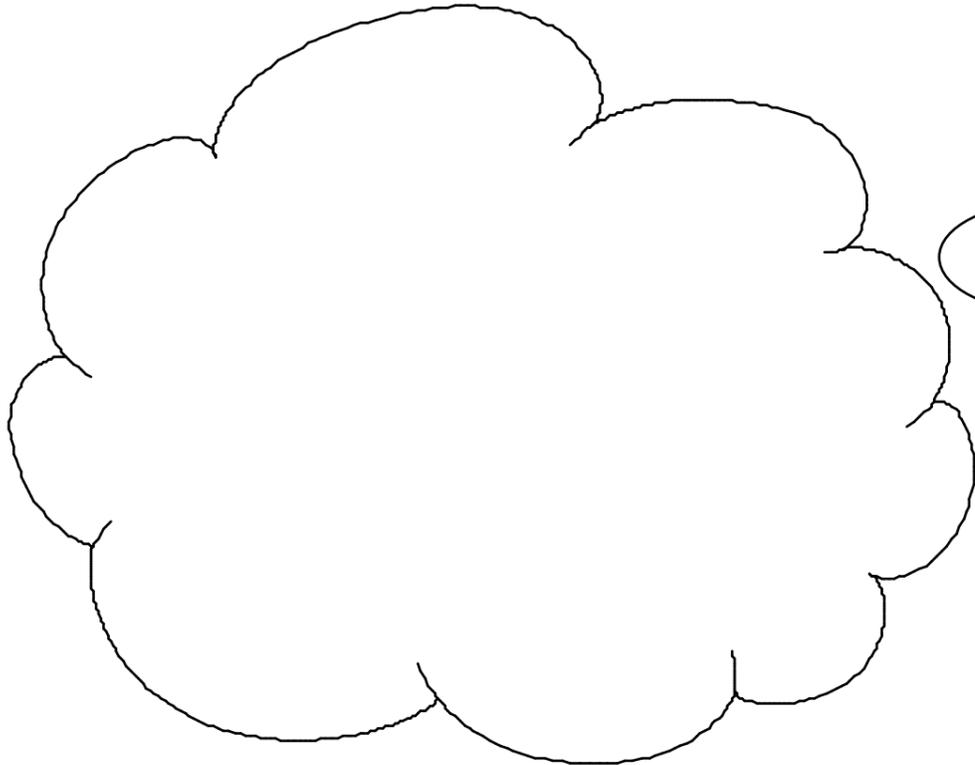
【私から】

今日の勉強を振り返って



# 伊能忠敬シート 名前（ ）

あなたは伊能忠敬です。「いつの時代の人」か、「何をした人か」「どのような生き方をした人か」などが現在のみなさんに分かるように、自己紹介をしてください。



今日の勉強を振り返って



# 伊能忠敬シート

名前 ( )

伊能忠敬の書いた測量日記です。気仙地方をどのように通っていったのでしょうか？知っている地名をえんぴつで囲んでみましょう。

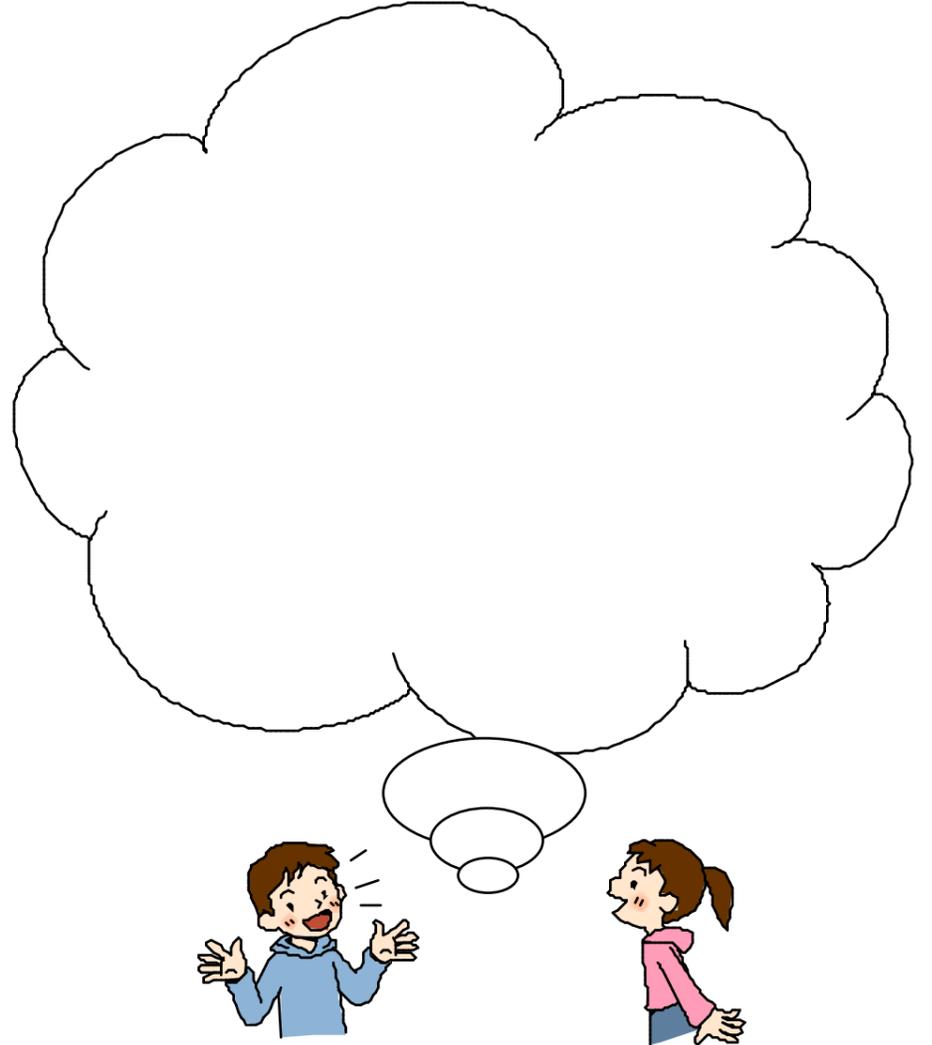
伊能忠敬が、実際に陸前高田を測量していったことを知って、どのようなことを感じましたか

伊能忠敬が  
気仙地方を  
測量した際の  
測量日記

# 杉田玄白・伊能忠敬シート

名前 ( )

杉田玄白や伊能忠敬の生き方・考え方を学習して感じたこと、これからの生活に活かしていきたいと思ったことを書きましょう



## ふわけ見学への願望と朗報

いつも友人に出会うたびに語り合ったことは、  
「いろいろ見てきたが、オランダの学問は感心することばかりだ。もし、オランダの本を翻訳できれば、ことのほか役立つに違いない。なんとかしてこの道を切り開く方法はないだろうか。」

ということであった。そして、それができないことをなげくのが、いつものものであった。

たしか、三月三日の夜のことであった。町奉行から、  
「明日、骨が原でふわけをするということである。もしご希望であったならばお出かけください。」という手紙が届けられた。

私は、オランダの解剖の書物をはじめて入手したことでもあるので、実物と照らし合わせてみて、どちらが正しいか確かめようと喜び、このうえもなく絶好の機会がやってきたものだとして、心はおどりがあがらばかりであった。

さて、このような幸運は、自分ひとりだけで見るべきではない。医学に熱心な同士の人々に知らせてやって、一緒にこれを見て、お互いの医学の利益にしたいと思いめぐらし、中川淳庵や前野良沢に知らせたのである。

翌朝早く出会った良沢が、一冊の本をふところから取り出したのだが、それは私が手に入れたものと同じ書物であった。なんという偶然かと、お互いに手をたたいて感激した。それにしても、もう一度見たその図は、やはり漢説の図とは似ても似つかぬものだったから、直接見てみないうちはなんともいえないと、だれもが心の中で思ったことであった。

## 【ふわけを見ての帰り道】

ふわけ（人体の解剖）を見た後、良沢（前野良沢）、淳庵（中川淳庵）と私（杉田玄白）は、いっしょに帰った。途中、私は言った。

「今日のふわけは、何もかもまったく驚くばかりでした。これまで、人体のことをまったく知らなかったのは、はずかしいことです。いやしくも医者として互いに主君につかえる身でありながら、医学の基本であるべき人体のしくみも知らず、今まで一日一日医者として勤めてきたことは、めんもくもないことです。何とぞ、このふわけをもとに、さらに人体内部のつくりをくわしく知って医学にはげんだら、医者としてりっぱにやっていけるでしょう。」

二人はうなずいた。良沢も「まったくそのとおりです。私も同感です。」と言った。その時、私は

「よし、この『ターヘル・アナトミア』を私たちの手で翻訳してみようではありませんか。そうすれば、人体の内部や外部のことがよく分かって、治療するのに多いに役立つでしょう。そして、通訳の手を借りずに読むことができるでしょう。」

と言った。すると良沢は、「私も前からそう思っていました。しかし、志を同じくする友がいませんでした。いつもこのことをなげいて日々を送っていました。こうなれば、『善は急げ』ともうします。さっそく明日から私の家に集まって、翻訳を始めようではありませんか」といった。

## 「ターヘル・アナトミア」翻訳の苦勞

さて、ふわけの翌日、良沢の家に集まって昨日のことを話し合った。まず、あの「ターヘル・アナトミア」の原書に向かってみたところが、まったく、艚（ろ）も舵（かじ）もない船が大海原に乗り出したようで、ただただ、ひろびろと果てしなく広く、よりつくところとてなく、ただもう、あきれにあきれのばかりであった。

その中で良沢は、まえまえからオランダ語を読みたいと考えていて、長崎にも出かけて行き、オランダ語の単語や文章のつながりについても、すこしは分かっていた。経験もあるし、年も私より十才ほど年上であることから、良沢を翻訳の中心と考え、先生とあおぐこととした。私はといえば、まだ基本となる25文字さえも習っていなかった。よって、良沢に教えてもらいながら翻訳を進めることとした。

みんなで頭を寄せ合っても、なかなか翻訳は進まなかった。時にはわずかに10センチメートルほどの文章なのに、一日かかっても理解できないこともあった。それでも意味が理解できたときのうれしさは、何にたとえようもなく、世にも至宝しほうといわれる「連城のたま」を手にいれた心地こころがした。

それでもやはり、考えつかない言葉が多かった。そういうときには、

「これらは、いずれ、進んでいくうちにわかるときもあるだろう。とりあえず印をつけて おこう。」

ということで、丸の中に十文字を書いて残しておいた。その印は轡くつわ（くつわ）十文字と名付けていた。集まるたびにいろいろ言い合い、考え案じても、理解することができないときは、その苦しさのあまり、

「それも轡十文字。えーい、それも轡十文字」といった調子で、中には、轡十文字で真っ黒になるページもあるほどであった。

## 【建部清庵との交流】

「解体新書」がまだ出版される前、奥州一関の医者で、建部清庵とい人が、私の名前を伝え聞いて、常づね書き記しておいた疑問を書いてよこしたことがあった。そこに書かれていたことは、私にとっても感服するところが多く、顔は分からないけれども、私と志を同じくする点で、まさに千里へだてていても心はひとつの思いであった。彼は、

「これまで、オランダ流の医学が、あまり生かされてこなかったのはまことに残念なことである。はやく我が国で正しい考えを持つ人々が出てきて、昔、仏教の経典を翻訳したように、オランダ医書の翻訳をしたならば、正真しょうめいのオランダ流の医術が広まるであろう。」

と書いていた。これは、清庵が20年も前から心にかけていたことであるという。その先見の明るさには実に感服して余りある。私はこのような人物に出会えたことを、躍り上がって喜び、

「私たちが知り合いになれたことは、実に奇跡のようなことである。」

と返事を書いた。それからは、お互いに手紙のやりとりを行い、貴重な意見こうかんを行うことができた。弟子たちはその手紙のやり取りを「和蘭医事問答」という一冊の本にまとめた。それは、蘭学を学ぶものたちの教科書のような存在となっていた。

## 杉田玄白と大槻玄沢

・・・先に述べた<sup>たけべ</sup>建部氏は、わたしより二十歳ほど年上であったが、私との交流をことのほか喜び、「実にうれしくて、気もくるわんばかりである。」とまでいってくれた。ぜひ江戸に出て行って、私と実際に会いたいところだが、なにぶん年寄りなので、体が無理を聞いてくれない。ということで、自分の門人である大槻玄沢（おおつきげんたく）という医者を経由して江戸にのぼらせて、私の門に入れられた。

この玄沢という男、物を学ぶときには、実際に自分の手で行い、自分の目で確かめることをよしとする者である。よって、心に十分なつくしないうちは、中とはんぱなことは書くことも話すこともしない。うわついたこともなく、冷静で、オランダ科学の勉強には生まれつきの才能を持った人であった。

私はその人柄と才能を愛して、つとめて教えみちびき、後には直接良沢にたくして<sup>らんがく</sup>蘭学の勉強をさせたところ、期待どおり、<sup>いっしょうけんめい</sup>一生懸命に努力した。良沢もこの人物の良さを知って、蘭学のしんずいを伝えたので、ほどなくオランダ語をほぼ理解し、<sup>ほんやく</sup>医学書などを翻訳するようになつた。

ところで、「解体新書」は、大変急いで作ったので、くわしい説明はしょうりやくした所が多い。むりやりに訳したので、意味のつうじない部分やまちがいも多い。私もそのことは十分にわかっていたので、はやく<sup>しゅうせい</sup>修正したものを出版したいと思っていたが、なかなか時間がとれないでいた。そこで、弟子の中でもっとも<sup>しんらい</sup>信頼していた玄沢に任せたところ、私の期待をはるかにこえる働きを見せ、「<sup>ちようていかいたいしんしょ</sup>重訂解体新書」を完成させてくれた。

このような人物がでて、蘭学が発展してきているのも、私の本来の<sup>こころざし</sup>志を、天が助けてくださっているからだ、感謝の気持ちでいっぱいになる。

## 杉田玄白の翻訳に対する考え

私は、オランダの図が、中国や日本の説と違いがあることに驚き、なんとかしてそのことを早く明らかにしたいと思った。そして、病気の治療に役立てたいと思い、また、世間の医者たちが治療を行うためにも役立てたいと思ったのである。そのため、なんとか一日もはやくその内容を多くの人が見ることのできるようにと考えたのである。

だから、難しい所は無理に訳したりせず、自分たちのわかるはんいで訳してきた。ただただ、ほんの少しだけでも体の中を知ることができるようにと願って作った。

この本はまだまだ不完全なものである。後の世の人が見たら、その不完全さを笑われるかもしれない。しかし、笑われることをおそれて、本当に大切なことを伝えないことは私はたえられない。私たちが行ったことを、後から続くものたちがよりよく発展させ、直すべき所は直し、使える所は有効に使ってほしいと願うのである。

## 蘭学の発展を見る玄白の思い

一てきの油は、これを広い池の水に落とすと、だんだん広がって、やがて池全体におよぶという。ちょうどそのように、前野良沢、中川淳庵(じゅんあん)、私の三人でかりそめに思いついたことが、五十年近い年月をへて、今この蘭学が全国に及び、そこかしこ四方に広がり、多数の書物も出ていると聞く。このように長生きしているからこそ、このような様子を見ることができると、<sup>おどろ</sup>驚きもし、喜びもしている。

### むすびに

かえすがえすも私はことのほかうれしい。この学問の道が開けたならば、百年・千年の、のちのちの医者が真の技術を手に入れて、人々の生命を救うという広大な<sup>りえき</sup>利益があるだろうと、まさに手舞い足おどる<sup>ま</sup>喜びをおさえきれない。

よくよく考えてみると、実にありがたいことに<sup>てんかいたいへい</sup>天下太平のおかげによって生じたことなのである。世の中に、どんなに学問をこのみ、志を高くもっている人があっても、戦乱のうちつづくさなかでは、どうしてこのような新しい学問を始めて、このように発展させることができたであろうか。

蘭学のひろまりを記してきたこの書を、大槻玄沢氏に<sup>おく</sup>贈る。私はしだいに<sup>お</sup>老いつかれてきたので、こののちこのような長いものを書き記すことができるとは思われない。この世に生きているうちに少しでもと思って書き続けてきたものである。事実とちがっている所があれば直し、書きあらためて、これからの人々に見せてやってほしい。